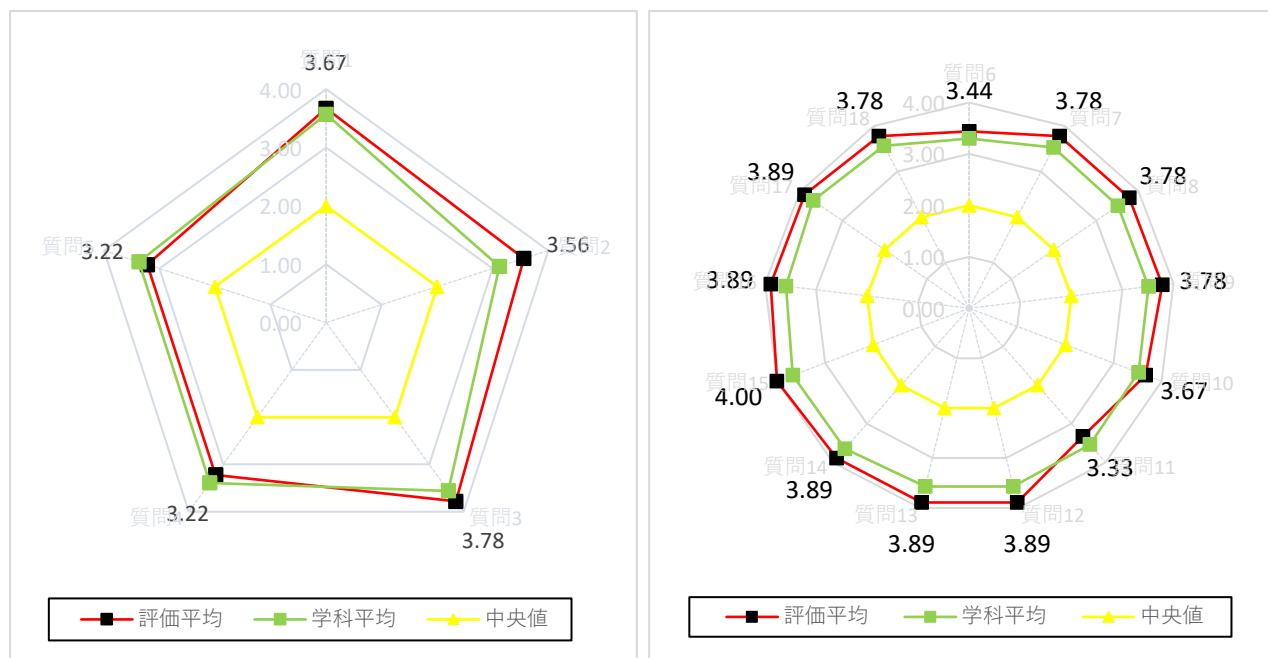


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろう I 基礎 (初 年次教育含)	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

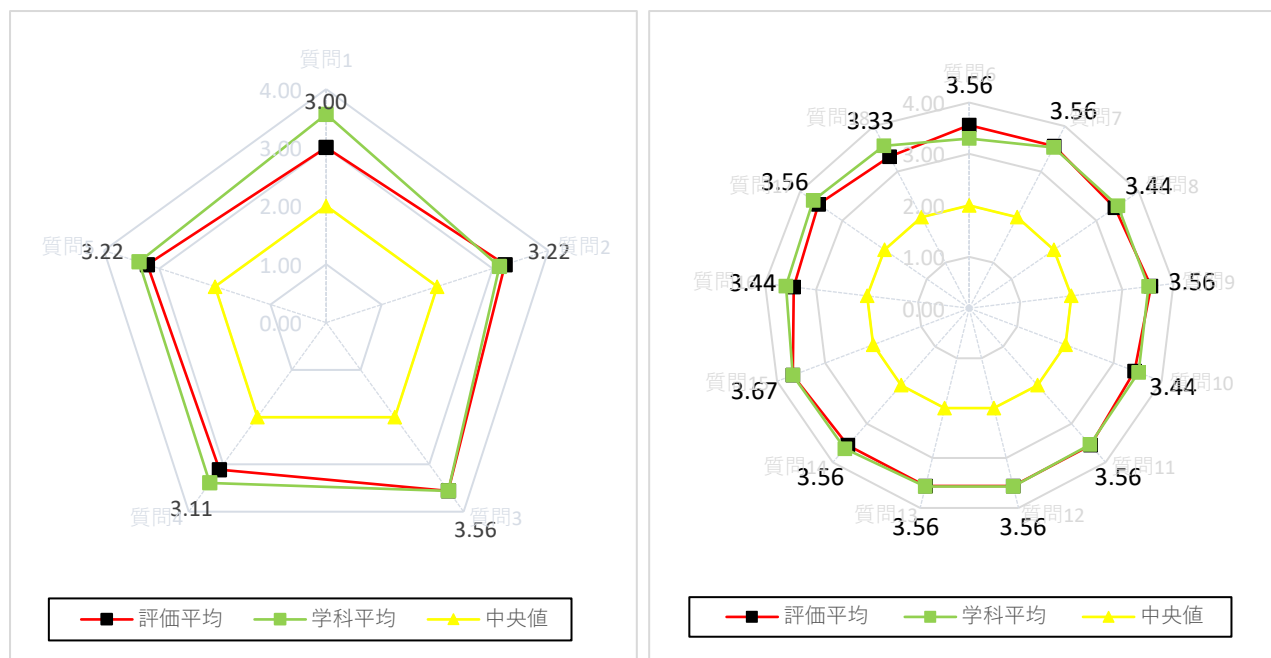
従来、本科目は入学後の学生において教員との信頼関係の構築の礎となっていた。本年度は遠隔授業が主となったことから従来通りの成果がなされるか不安であったが、「楽しかった」「話し合いの機会がもてた」など双方向的なやり取りが達成でき、おおむね本科目の役割を達成できた内容であったと考えている。しかしながら、現在のあすなろう I 基礎において実施している内容が真に本学生にとって最適であるのか、他にもっと必要なものがあるのではないかと考えさせられることもしばしばあるので、授業内容そのものの改善の余地があると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

あすなろう I 基礎は、自主性・主体性を培う授業であるとともに社会人に向けての準備の場でもあることから、従来より意識している「自身の意見を発表する機会を設ける」といった自主性・主体性を促す工夫のみならず、キャリアパスを見据えた授業の内容を加える工夫を重ね、学生自身の未来の可能性をさらに広げられるよう期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろう I 基礎 (初 年次教育含)	15名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

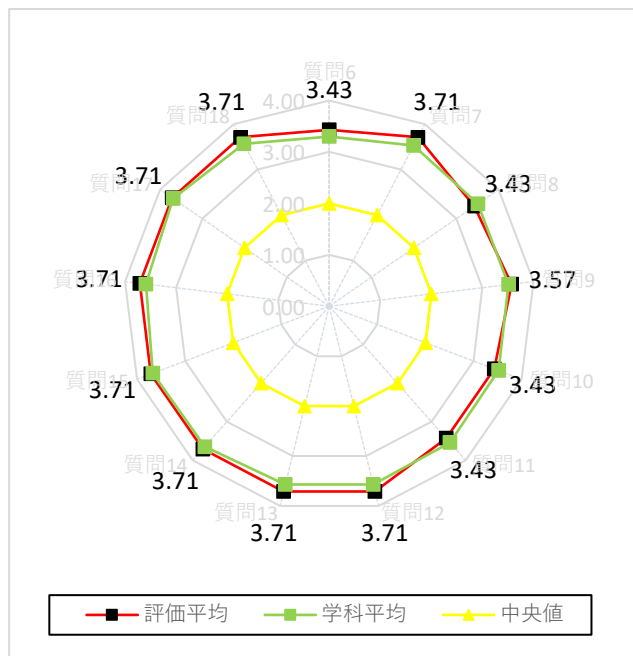
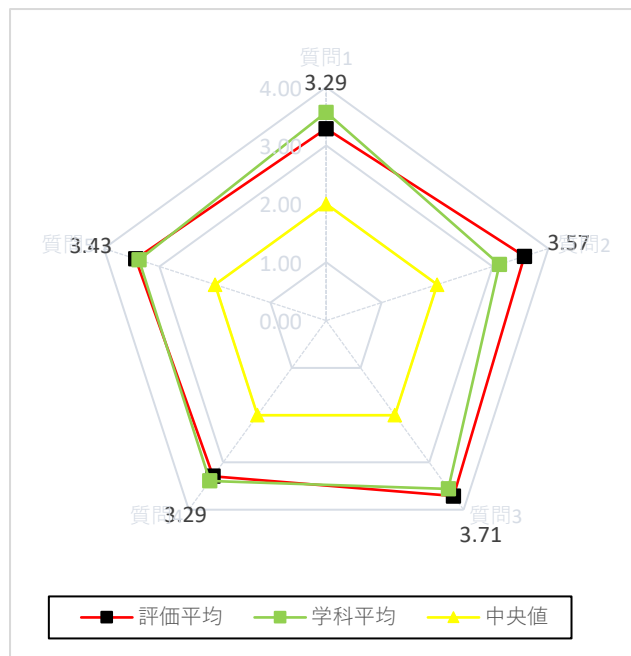
あすなろう I 基礎の授業評価結果の分析においては、質問1から18までの全てにおいて、学科平均と同程度という結果となった。特に低い項目は無かったが、コロナ禍で学生は、かなり不自由を感じた内容であったと思う。基本的な授業の進行は十分に行えていたと思われる。本授業は本学への入学生を社会へ送り出すための最初のステップとして、社会人としての常識的なマナーやスキルを身につけさせることにありと考えられる。また、本学科での勉学への取り組みの姿勢を身につけさせることも重要である。学生は様々なボランティアを体験し、この授業の意義を感じてくれたのであろうと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は大幅に内容変更があると聞いているので、新規の内容に対しての対応が必要である。あすなろうの授業においては、授業内でのやり取りだけでなく、ポータルサイトを通じた学生との双方向のやり取りも大切である。これはポータルサイトのシステムや操作、一年間の内容も全体を把握できているので、それぞれの授業において、本授業の目標を目指して授業を進めていきたいと思う。新入生は新しい環境の中でさまざまな不安や壁にあたることもあると思うが、学科のカリキュラムの進行に沿ったアドバイスを授業の中でしていく予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろうⅠ基礎（初 年次教育含）	14名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

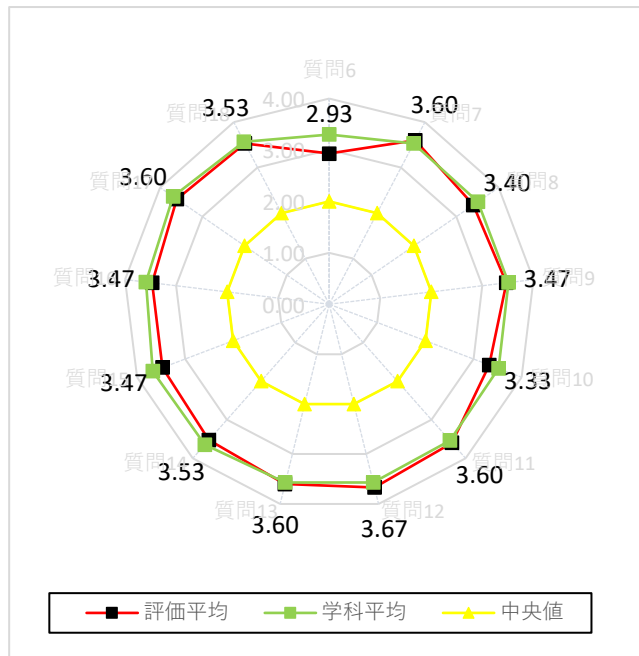
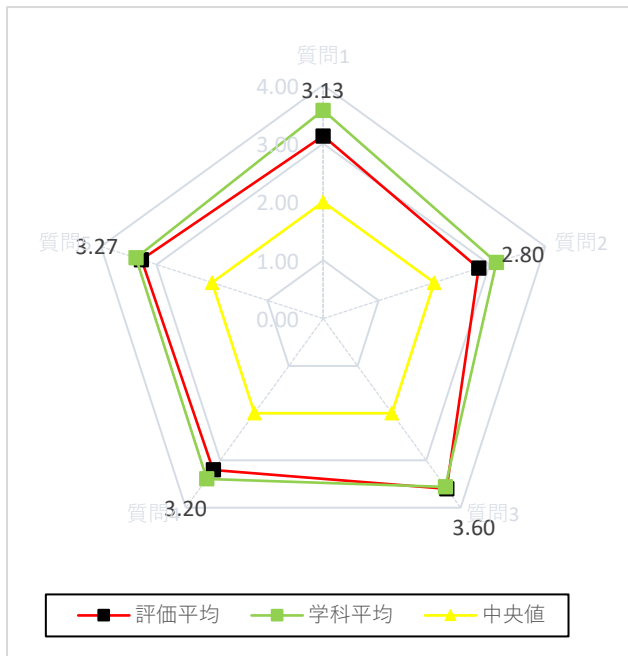
ほとんどの授業が遠隔となり、なかなかやりにくいところもあった。
 学外体験活動は、例年よりもポイント数を減少したものの、無事に実施することができた。
 ゼミごとの授業や個人面談などもオンラインででき、楽しく話すこともできたので良かったと思う。
 また、「Go to 西九キャンペーン」を対面で開催し、1年生にとってはとても楽しいイベントとなったようである。
 学生による評価も学科平均、もしくはそれよりも良い評価のものもあり、ほとんどの授業が遠隔でもうまくいくことが分かった。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、「健康栄養学概論」と統合されるので、試行錯誤しながら授業を行うことになると思われる。
 1年生に不安を与えないよう、教員間で話し合いながら、新しい「あすなろうⅠ基礎」を進めていく必要があると思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		地域連携	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

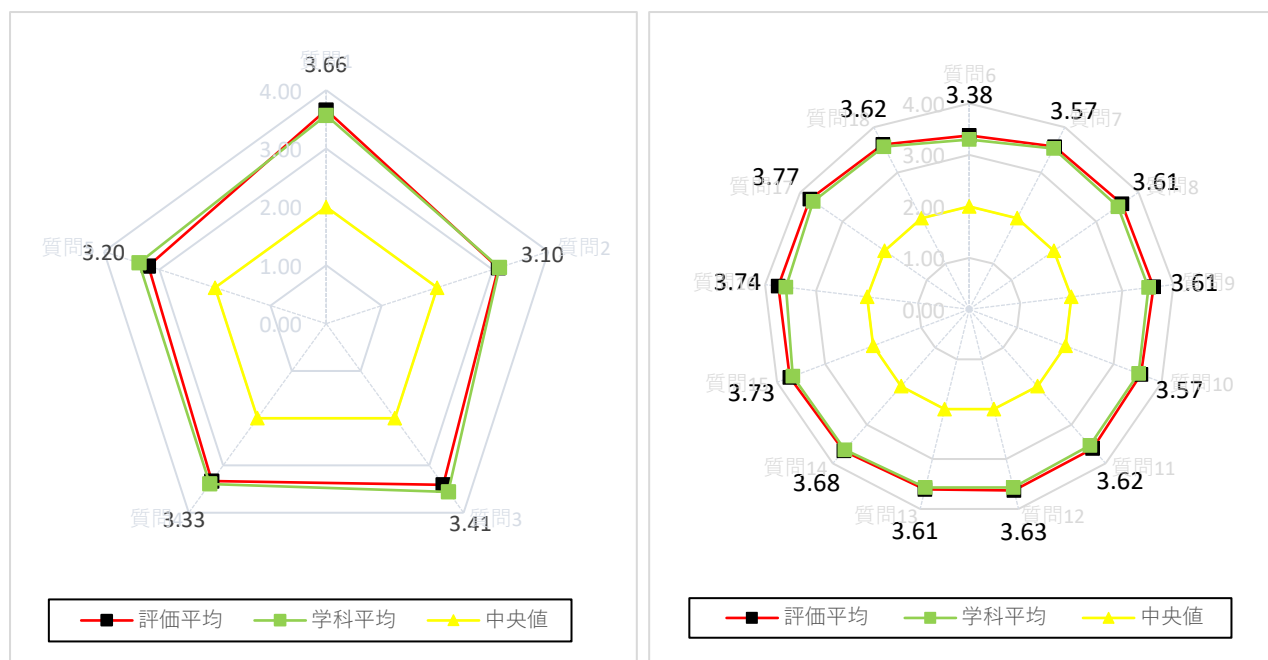
シラバスの活用について、学科平均より低い評価になった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、授業の中でシラバスを用いて、学生との共通見解を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング		文学と言語	110名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

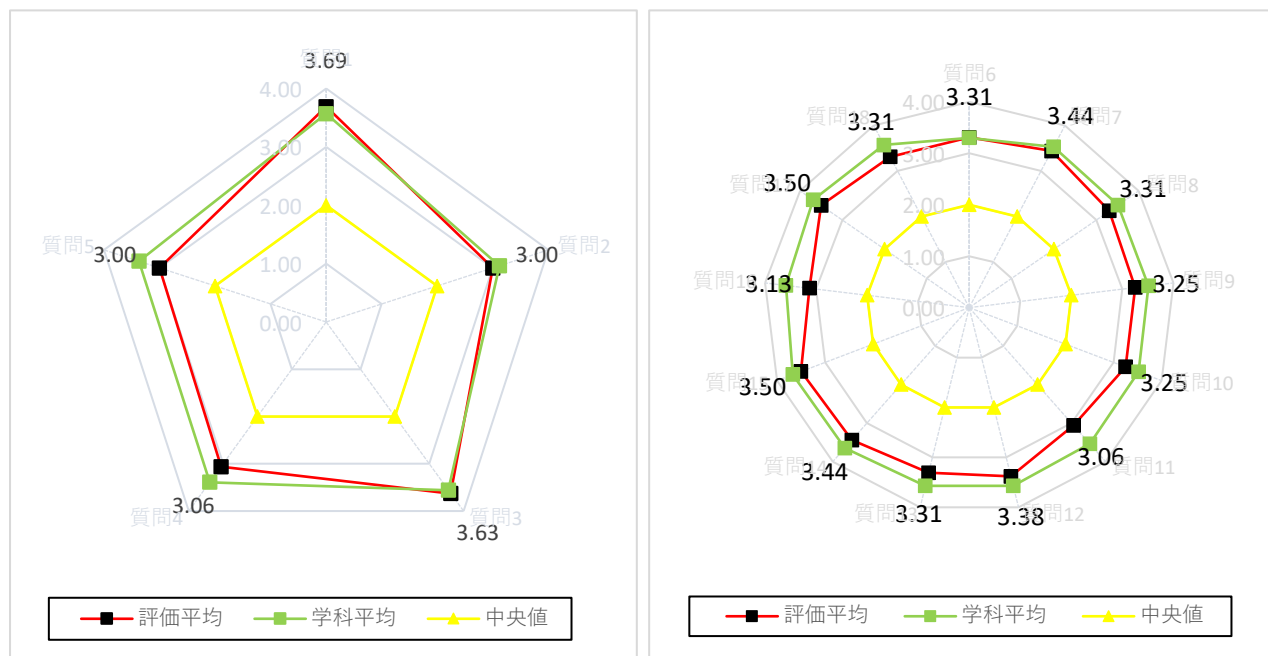
結果の分析と評価については、その詳細を令和二年度子ども学部紀要に掲載した。昨年度末の振り返りで、「文学と言語」は、次年度は全学部の学生に対して開講されるので、他学科の学生をより意識した授業にしたいと書いた。全て遠隔授業の形を取ったが、受講生間の考えの共有・交流を図ることができた。私の担当する科目の中で最も有意義な授業実践となり、学生の評価も高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の授業実践で膨大な時間を費やしたのが学生への個別指導（ポートフォリオへのコメント書き）である。個に応じた指導助言を大切にしながら、より効率的・効果的な指導助言をどうしていくか。次年度にはTeamsを生かした遠隔講義が入るので、この三月中に事前準備をしておきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング		生涯学習論	34名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

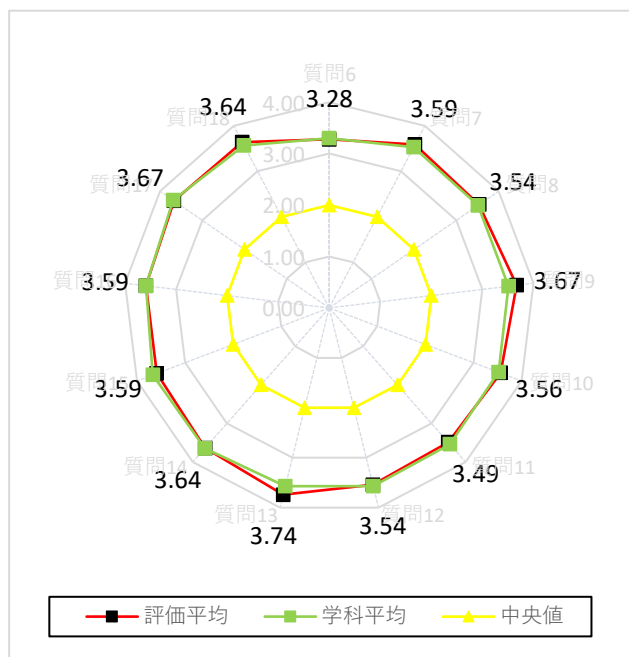
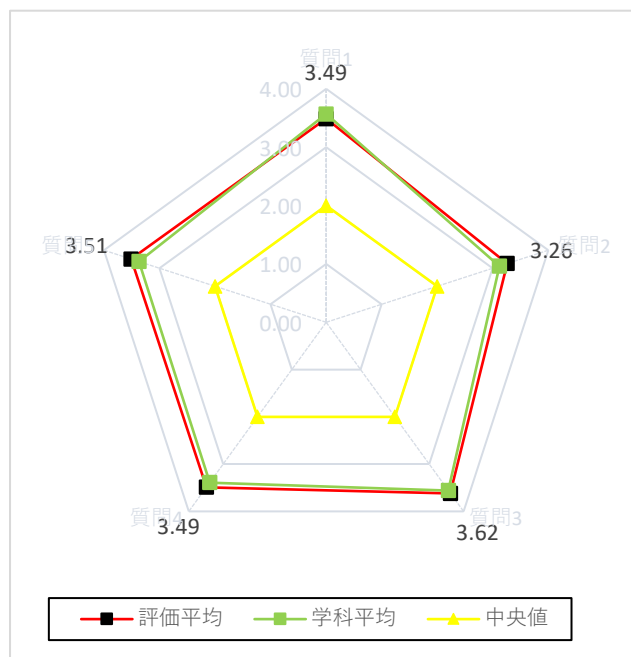
子ども学部10/12、リハビリ1/4、健康福祉5/18、の回答であった。学部によって回答者数、授業評価の点数が異なっている。しかし、全般的に3.5前後の評価点数となっており、概ね良好であったといえる。学生の自由記述からは、「授業が始まる前にちゃんと課題を提出していない生徒に対して名指しで今のままで大丈夫とわざわざ言っていたのはとてもいいなと思いました。自分もそれを聞いてちゃんとやろうという気持ちになりました。」「興味を引くような授業で楽しかったです。YouTubeや、ホームページを用いて講義を行っていたのでとても内容が分かりやすかったです。」との意見があり、担当者の意図が理解されていたように思う。前期の他のリモートの授業で、動画の視聴がうまくいかなかったことの反省からYou Tubeを使つての課題提出としたことの結果が表れている。

(3) 次年度に向けての取り組み

他の授業でも学生の自由記述で指摘されていたことだが、授業の最初に課題提示をしてほしい、との意見があった。確かに授業のポイントを最初に指し示す方が、まじめに聞けるということなのだろうが、復習も兼ねた課題としては、聞き終わったあとでのその発展問題として課題を提示している場合ねあることから、予習、授業、復習の関連をより考えながら講義をする必要がある。次年度は、その点を工夫していきたい。また学生が視聴しやすく、問題監視を広げ、深めることのできるYou Tube教材の探索を行っておく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 リハビリテーション学部 子ども学部	健康栄養 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング		くらしと経済 (後期開講)	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

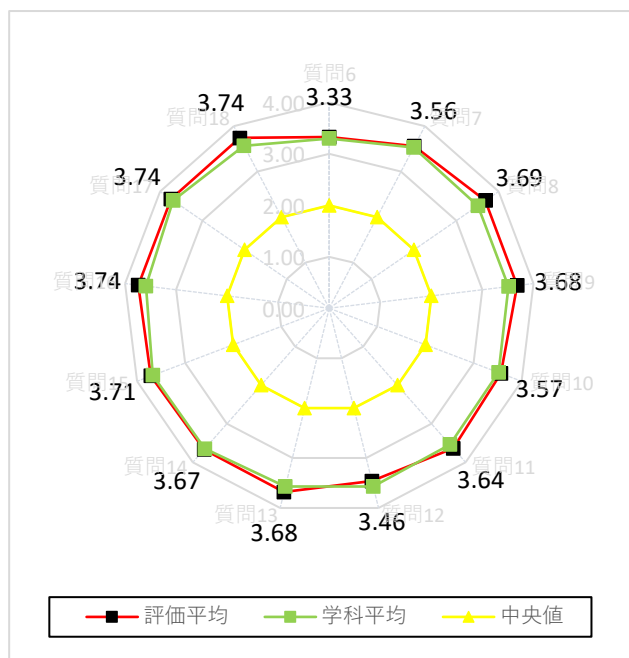
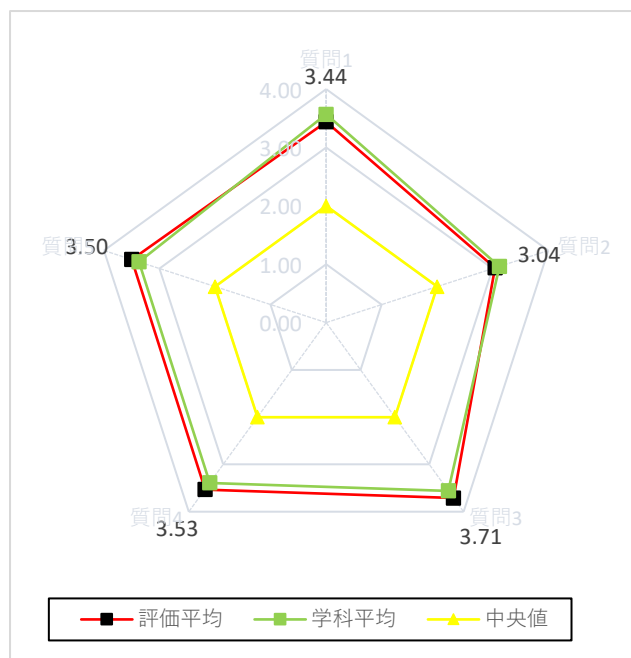
授業評価の結果は、概ね学科平均と同じであった。シラバスの説明は、評価が低く今後改善していきたいと思う。
よりわかりやすい授業を心がけていきたい。□

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明についての項目に関してはやや評価が低かったが、これはもう少し時間をさいて、丁寧に説明したいと思う。初回の授業で話してはいるのだが、多岐におよぶ項目で、理解しにくいのもかもしれないと思われる。したがって、今後は論点をしぼって、わかりやすく説明したいと思う。さらにシラバスそのものを使用しつつ説明を加えていきたいと思う。次年度においては、わかりやすい資料の作成と説明をさらに向上させていきたいと考えている。また、学生諸君が飽きないように時々穴埋め形式のプリントなども作成し配布したいと思う。そして、学生諸君が経済に関する知識をできるだけ増やせるように全力で取り組んでいきたいと考える。□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		くらしと経済 (前期開講)	87名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

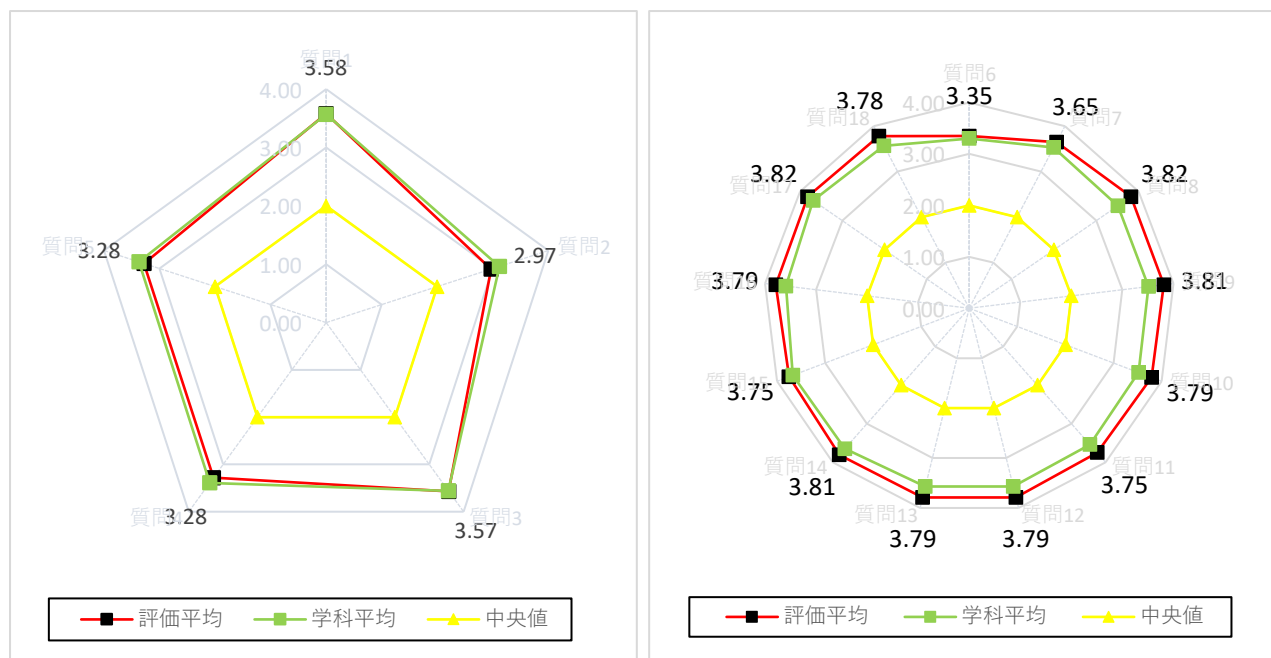
授業評価の結果は概ね学科平均と同じであった。
 今後もわかりやすい授業を心掛けたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明についての項目に関してはやや評価が低かったが、これはもう少し時間をさいて、丁寧に説明したいと思う。初回の授業で話してはいるのだが、多岐におよぶ項目で、理解しにくいのもかもしれないと思われる。したがって、今後は論点をしぼって、わかりやすく説明したいと思う。さらにシラバスそのものを使用しつつ説明を加えてたり、配布資料でカバーするなどしていきたい。次年度においては、わかりやすい資料の作成と説明をさらに向上させていきたいと考えている。また、学生諸君が飽きないように時々穴埋め形式のプリントなども作成し配布したいと思う。そして、学生諸君が経済に関する知識をできるだけ増やせるように全力で取り組んでいきたいと考える。□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		身近な生活の化学	102名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

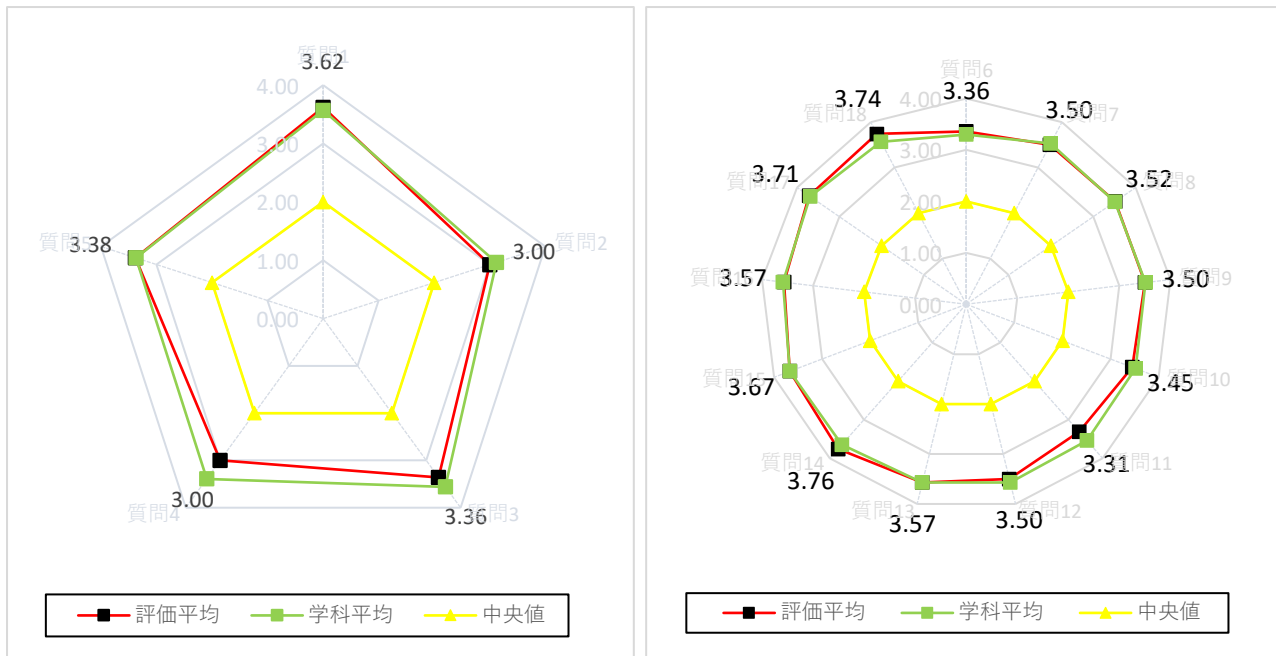
急遽、遠隔授業となって、資料作りが大変であった。
 伝わりにくい内容を、図や動画を用いて分かりやすい説明を心掛けた。
 そのせいか、学生による評価が学科平均よりも高く、おそらく対面の時よりも高い結果となったのではないかとと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も遠隔となったので、昨年度の資料をブラッシュアップして、さらにわかりやすい授業を心掛けたいと思う。
 学生側の顔が見えないのでなかなか双方向授業の感覚がないが、チャットには良く書いてくれるので、様々な機能を利用してなるべく双方向授業となるよう心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		フィットネス・スポーツ	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

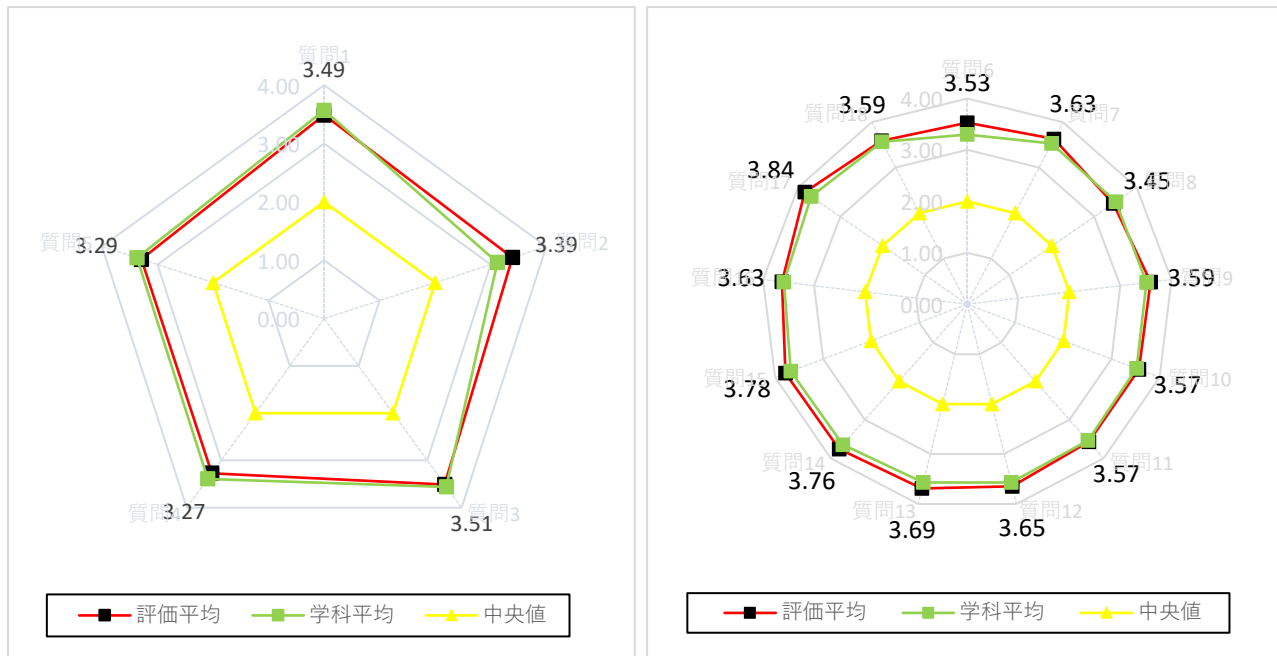
オンラインによる授業づくりには工夫と労力を強いられるかたちとなったが、動画の作成や授業資料作成において、今後に繋がる取り組みができたと感じている。学生においては、運動の特性や実施における考え方を習得できたのではと感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

これまで整えたオンライン授業の資料を活用し、よりよい授業に向けての準備は整ったと考える。これらの経験を踏まえた授業づくりに努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		文化人類学	81名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

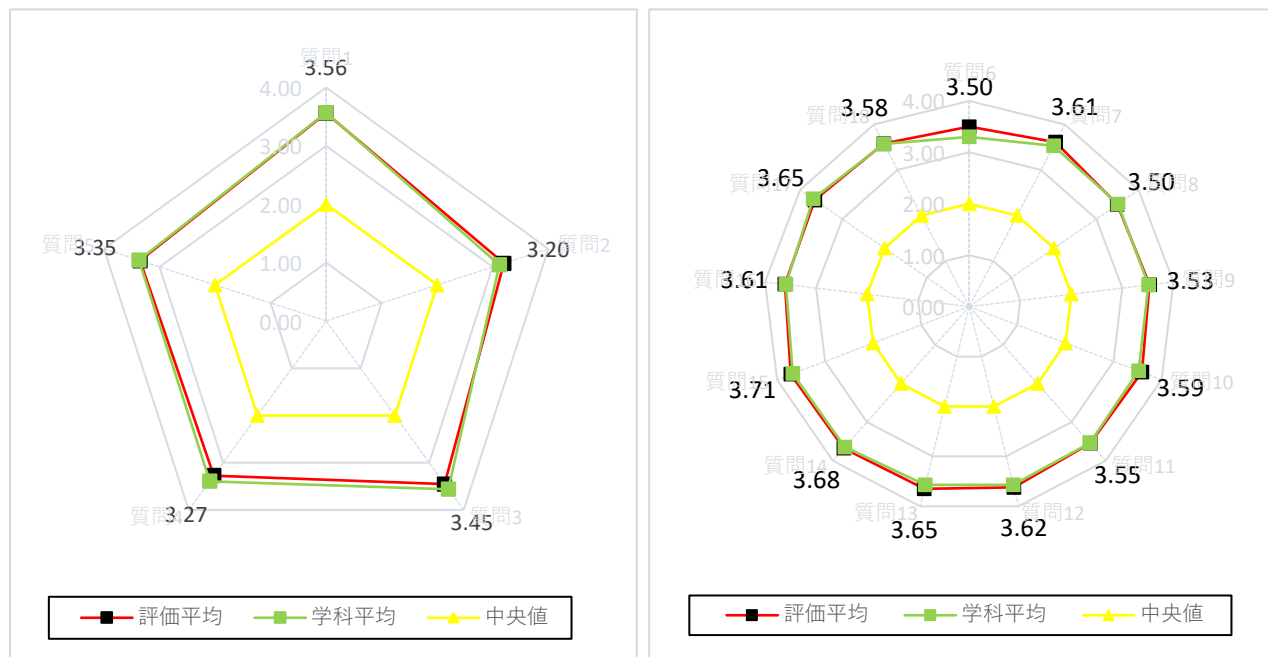
おおむね、高評価であったが、学科平均を若干下回る項目があった。
 遠隔講義ではあったが、アンケートや毎回の質問・感想をみる限り、講義参加度はかえって高かったと感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度がないのが残念である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 心理カウンセリング		変わりゆく国際社会を生 きる	132名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

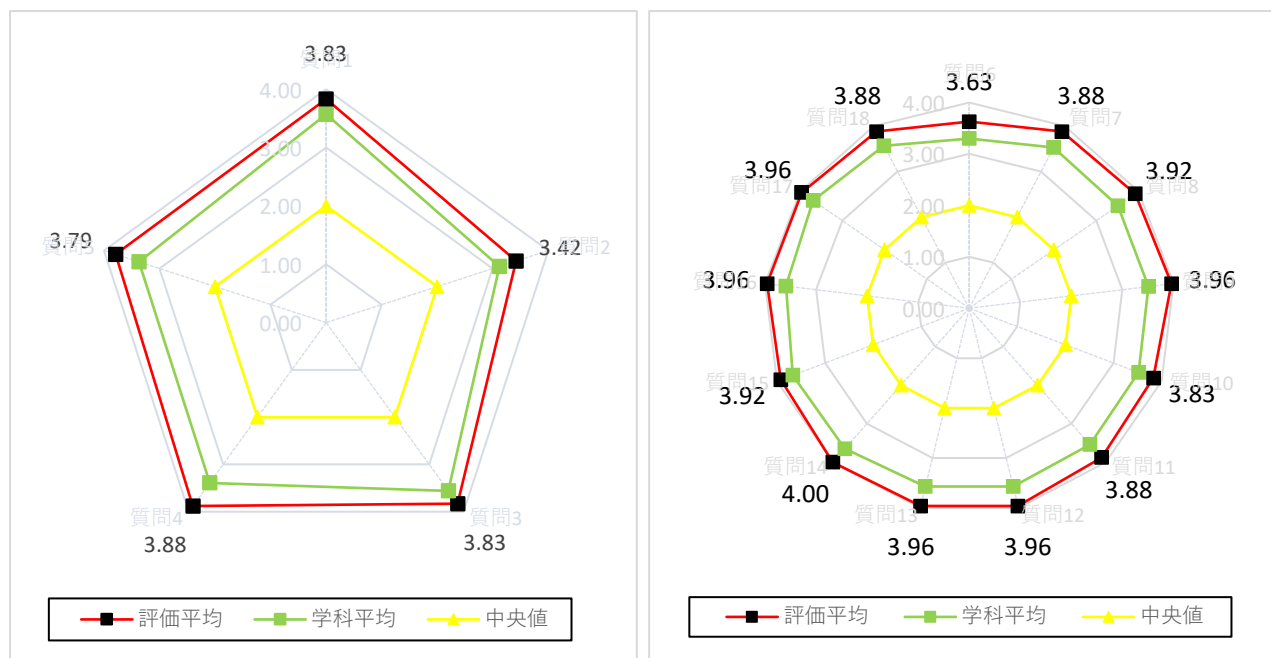
本授業は遠隔授業で展開し、学生たちには多くの不便をかけたと考えている。しかし、評価の平均がほとんど3.5を超えていることからおおむね良い評価を得られたと考えている。本授業は受講者数も多く、学生一人ひとりに十分に目をかけられたとは言い難いものの、課題に対して丁寧にフィードバックをするなど、できる範囲での努力を試みた。

(3) 次年度に向けての取り組み

共通教育科目ということもあり、今後も遠隔授業での実施が余儀なくされるかと思われるが、遠隔授業の中でも学生たちにより満足してもらえるような授業内容や授業方法の工夫を模索していく。たとえば、プレイクアートルームを活用したグループワークを取り入れたり、留学生との交流を取り入れたりするなど、楽しく学べるような授業運営を考えていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		日本事情 (Japanese & World Issues)	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

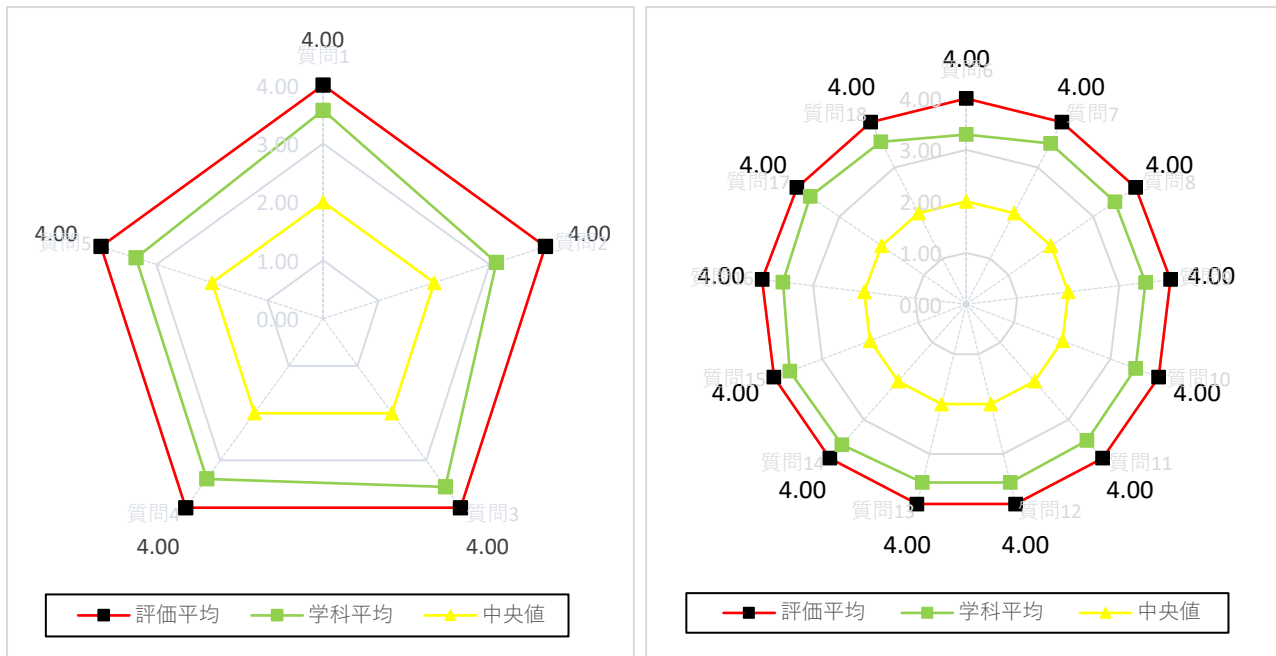
この授業を教えるのが本当に楽しくてやりがいのある授業です。受ける学生のレベルが高くてグローバル意識が高い学生が多いようです。今年はコロナで前期新規の交換留学生がいなくて、後期からの5名のみでした。従ってすべての活動は5グループで行いました。各グループに外国人の学生がいて、文化や考えの比較ができる仕組みとなりましたので、日本の学生にとって貴重な時間だったと思われます。高い評価をいただきましたので、満足しています。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて変更することはないです。というのも次年度の受け入れする学生がいらないと思いますので、この科目の開講することが難しいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		Global English I (再履修クラス)	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

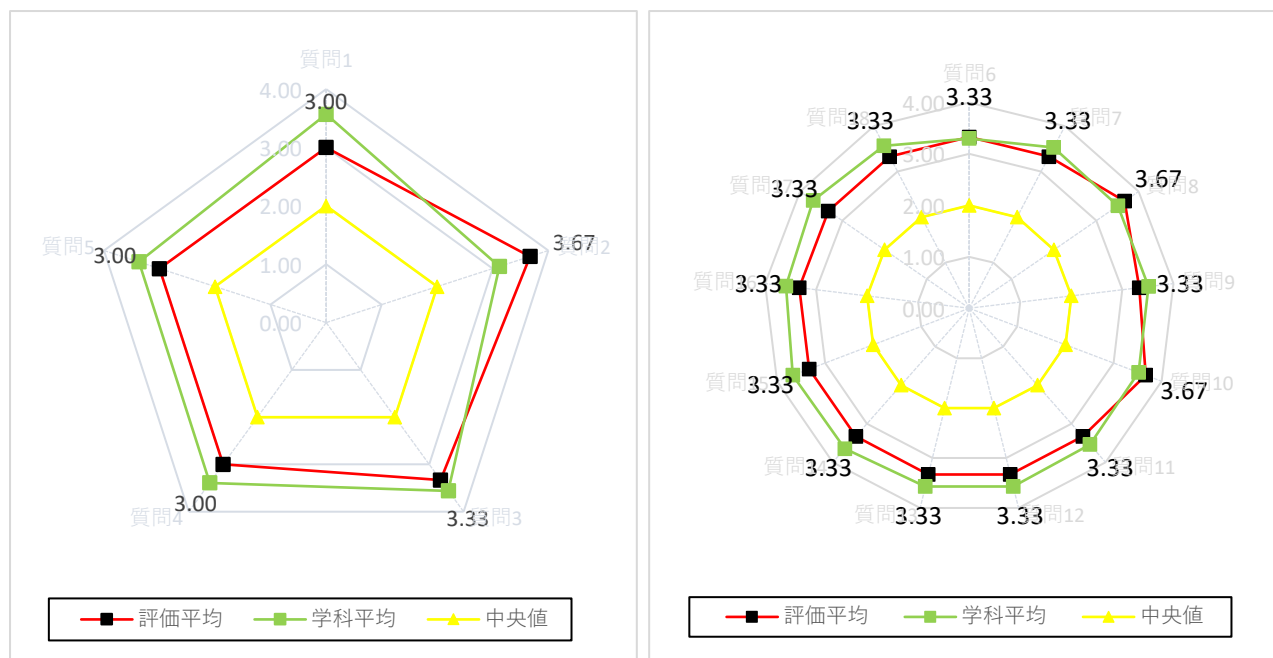
再履修のクラスでオンラインで行った。学生は積極的に参加し提出物や課題を頑張って提出された。

(3) 次年度に向けての取り組み

全学科の科目となるので、来年以降でもオンラインで実施したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
全学部	全学科		Global English II (再履修クラス)	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

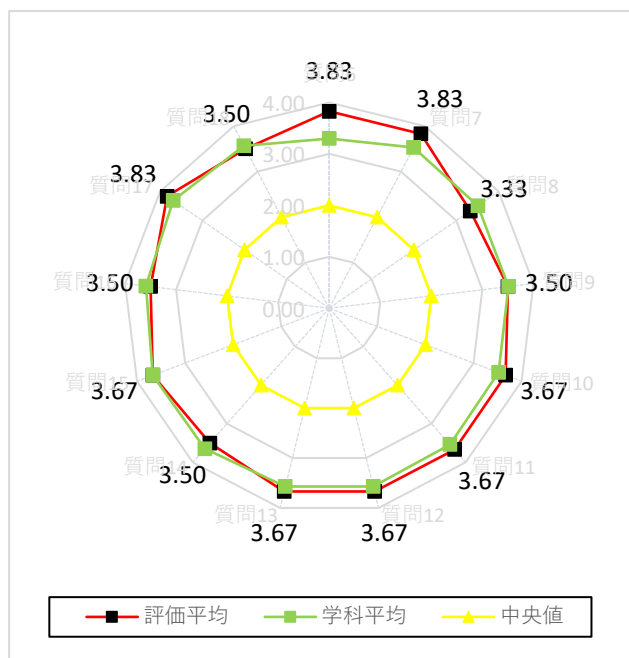
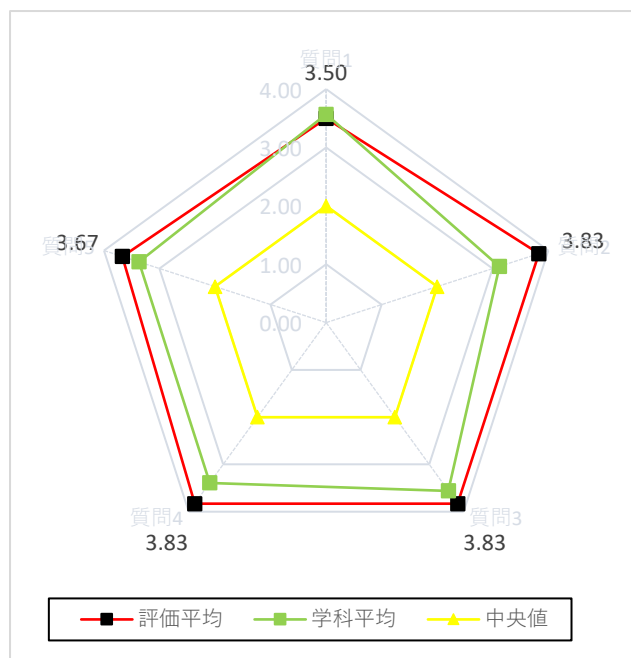
再履修のクラスでオンラインで行った。毎日2コマを8日連続で語学の授業には適していないと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度以降でもオンライン実施したいと思う。出来ればもっとゆっくりのペースで授業を設定したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学セミナー I	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

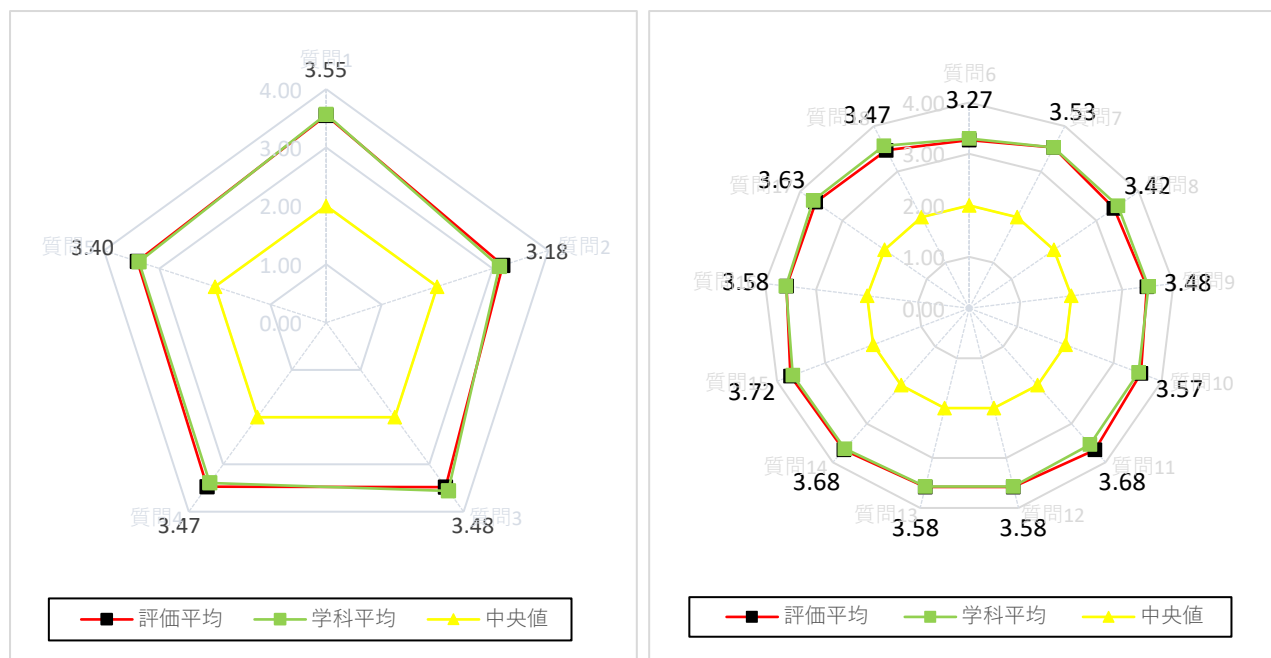
健康栄養学セミナー I の授業評価においては、すべての項目において学科平均と同じレベルにあったことから、おおむね満足できる内容であったと考えている。しかしながら、本授業は学生自身が考え、課題を発見し・解決策を見つける展開を重視しているため、当該スタイルを苦手とする学生もいると考えられる。学生誰もが楽しく、自主性や知的な問題に取り組む姿勢の向上が達成できるよう、学生個々のレベルに応じた授業取組みのための改善は必要であると考えます。

(3) 次年度に向けての取り組み

健康栄養学セミナー I は、アクティブラーニングを主とする授業であるので、より意欲的に取組める授業内容になるよう授業展開を工夫していきたい。また、個々の理解度や反応に配慮したアドバイスを心がけることで、問題解決能力がより高まることを期待したい。さらには、授業アンケートへの回答率が低いことから、授業内で回答する時間を設けるなどの工夫が必要と考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品学	99名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

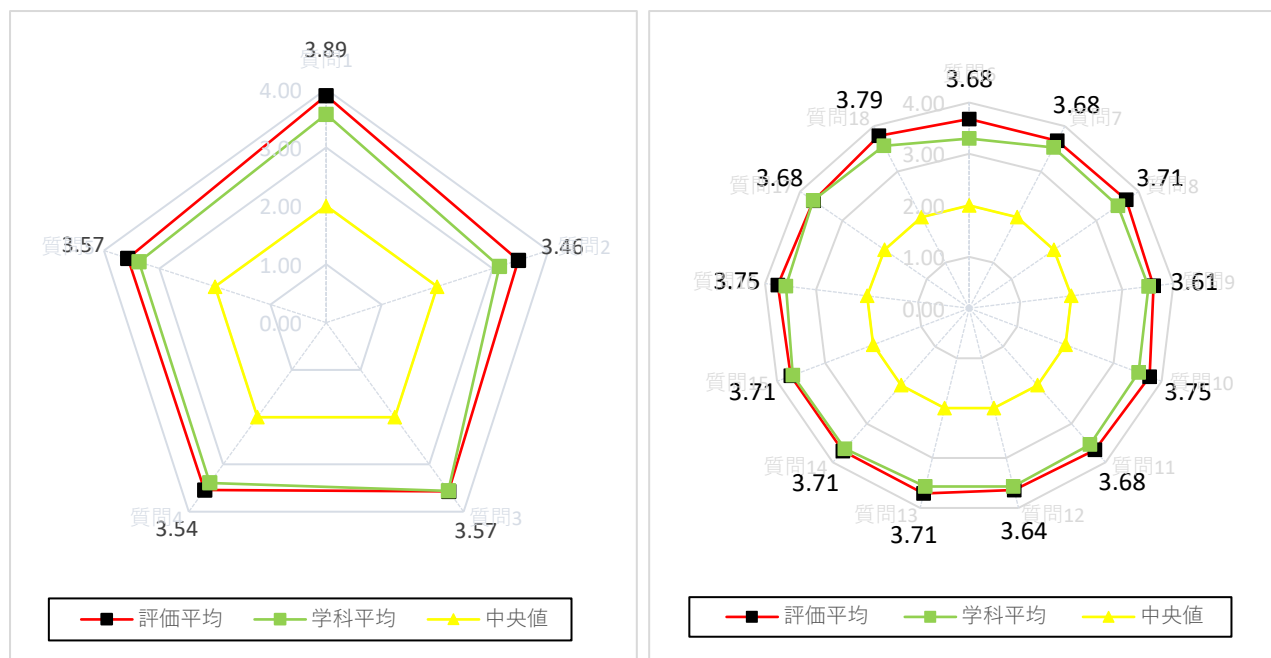
食品学の授業評価においては、項目1から14までのすべてにおいて学科平均とほぼ同じであったが、やや低い項目も少しあった。授業への関心や分かりやすさの項目において、少し難解であったと学生が感じているところがあるかもしれない。前年度よりは多少良いかもしれない。いずれの項目においても学科平均とほぼ同じであったが、年によって学生の平均的な学力やバラツキ度合いが変わるので、今後の改善の余地があると考えている。本授業は専門科目の中では基礎的な分野であるが、国家試験に向けては大切な科目の一つでもある。多くの学生は、国家試験の為だけではなく、食品に関しては興味関心を持っているはずであるので、そういった授業にしていく必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

食品学の授業評価においては、特に大きな課題は無いようであった。次年度からは本格的に遠隔授業となるので、対応した授業内容への改善が必要である。学生の中には明らかに理解ができていない者や理解に苦労している者も見られた。食品学の基本的な知識において、より丁寧な説明が必要であると感じている。また、前年度も小テストや課題プリントを実施したことは良かったと思うので、より試験勉強に直結するように小テスト、課題、定期試験をリンクさせて臨みたいと考えている。また、学生が授業に能動的に参加するような遠隔授業となるように、ホワイトボードやパワーポイントの使い方を考えたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品学実験	84名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

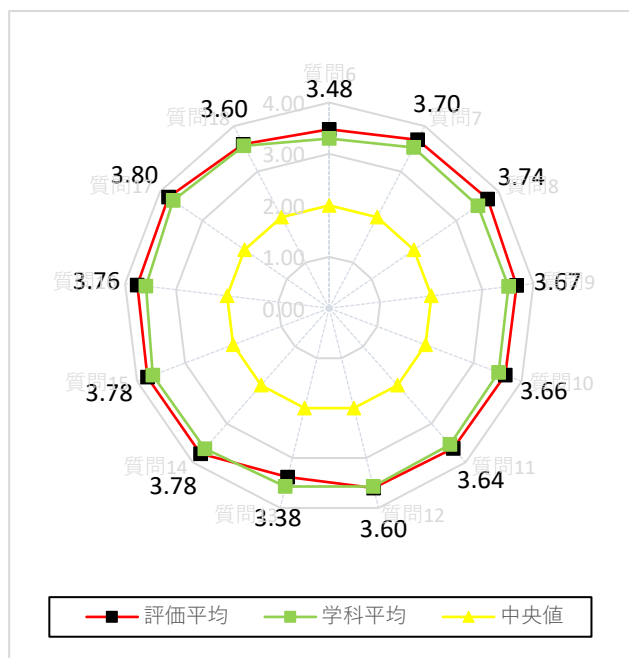
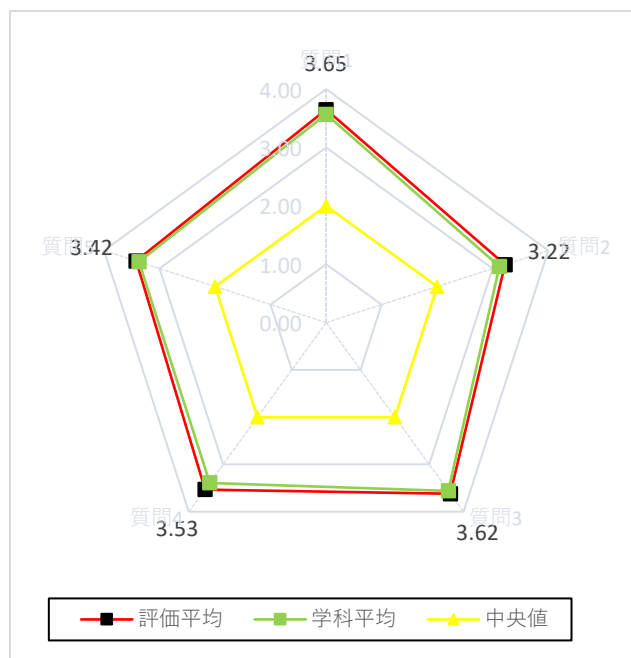
食品学実験の授業評価においては、すべての項目において、学科平均を少し上回るレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、改善の余地はあると思われる。化学を背景にした内容であり、計算や化学反応の理解などが、学生にとっては難解に感じることがあるようだった。実験の内容としては成分表の理解に重きを置いており、実験としてはやや面白みにかけるところがあるかもしれない。しかし、資格取得のための基礎知識としては食品学においては必須と考えるので、内容の変更は考えていない。

(3) 次年度に向けての取り組み

化学を背景とした内容であり、計算や化学反応の理解などが、学生にとって難解に感じるところがある。この点については、説明や計算を一緒にすることなど、もう少し時間を取りたいと思っている。実験内容の部分的な変更や、できるだけ全員が主体的に取組めるような方法などを少しずつ工夫していきたいと思っている。化学実験は危険も伴うものなので、何より事故やケガが起こらないよう細心の注意を払っていききたい。また、定期試験の内容と評価についても工夫が必要と思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		調理学	106名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

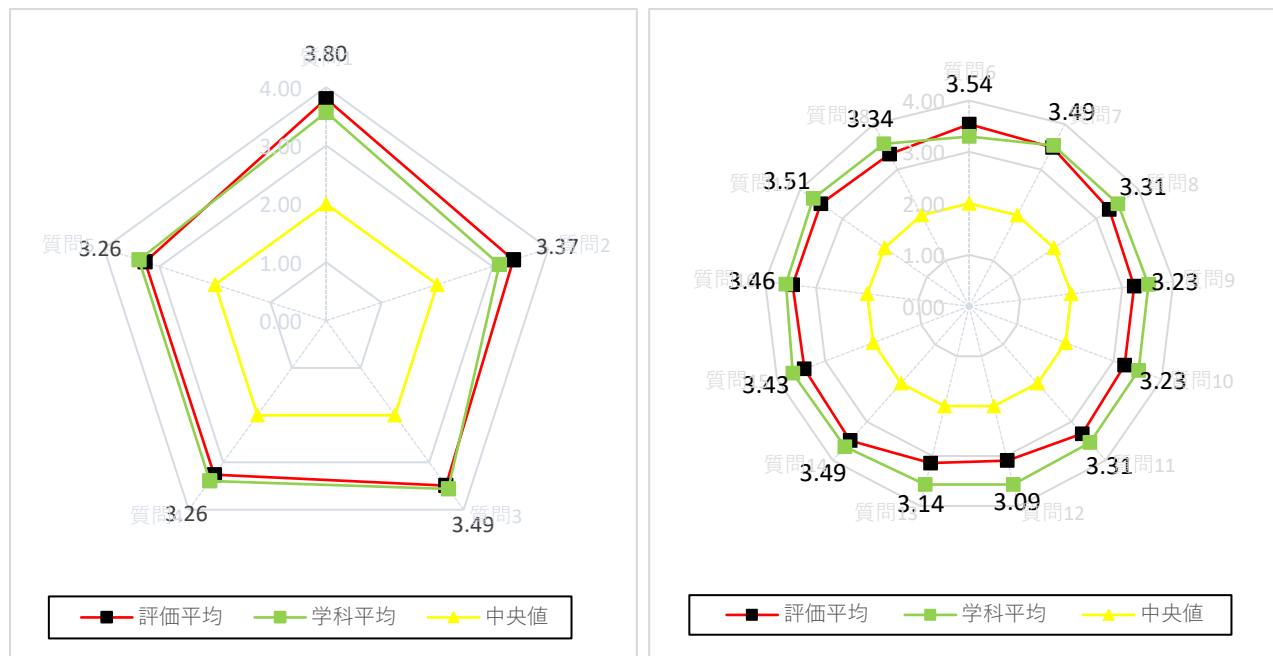
調理学の授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、個別コメントを見ると授業のペースが速いと回答した者もいたことから、より双方向的な授業となるよう改善の余地はあると思われる。調理に関する雑学も交えつつ、国家試験にも関連する内容であることから、1年生時より国家試験問題にふれられる機会を設ける工夫をしたことは良かったと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

遠隔授業中心ではあるが、反応ボタンを細やかに活用するなど授業スピード等学生の理解度に配慮しつつ、意欲的に参加できる工夫をしていきたい。また、国家試験においては最も基礎となる科目でもあることから、より個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ライフステージ別栄養学	91名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

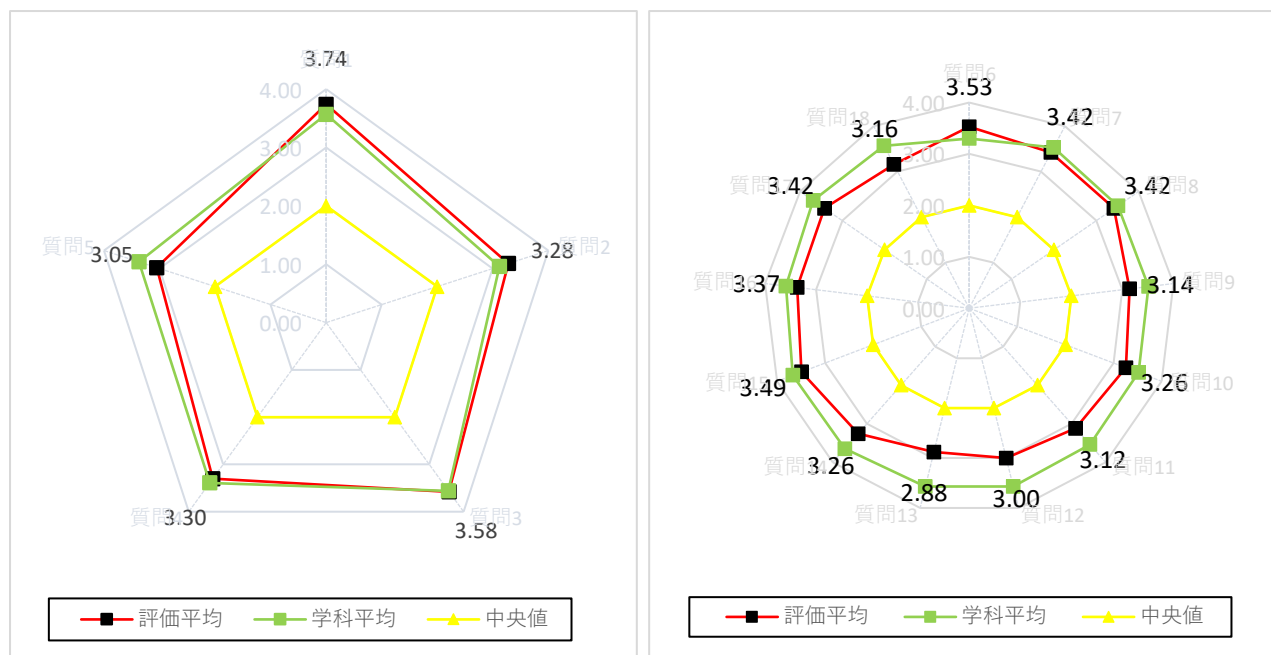
ライフステージ別栄養学の授業評価においては、概ね学科平均と同じレベルにあったことから、おおむね満足できる内容であったと考えている。しかしながら、項目8～13の評価においては、遠隔授業への不慣れさにより授業の進む速さや配布資料のタイミングや方法などに苦慮したことが、学生からの評価としても反映されたと考える。とはいえ、定期試験の結果は対面授業時と変わらぬ結果であったことから、習熟度については問題なく、授業内容についてもオンライン型のシステムを通じても対面時と同様に、国家試験問題にふれられる機会を設ける工夫をしたことは良かったと考えている。しかしながら、学生によっては理解度に差があると考えられるため、改善の余地はあると思われる。また、授業アンケートへの回答率が低いことから、授業内で回答する時間を設けるなどの工夫が必要と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

遠隔授業中心ではあるが、反応ボタンを細やかに活用するなど授業スピード等学生の理解度に配慮しつつ、意欲的に参加できる工夫をしていきたい。また、国家試験においても本科目は最も基礎となる科目でもあることから、オンライン型システムを活用し繰り返し練習問題に取り組める環境作りなど、より個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食事摂取基準概論	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

食事摂取基準概論の授業評価においては、概ね学科平均と同じレベルにあったことから、おおむね満足できる内容であったと考えている。しかしながら、項目9～14の評価においては、遠隔授業への不慣れさにより授業の進む速さや配布資料のタイミングや方法などに苦慮したことが、学生からの評価としても反映されたと考える。とはいえ、定期試験の結果は正規分布に従うなど良好であったことから、習熟度については問題なく、授業内容についてもオンライン型のシステムを通じても対面時と同様に、国家試験問題にふれられる機会を設ける工夫をしたことは良かったと考えている。

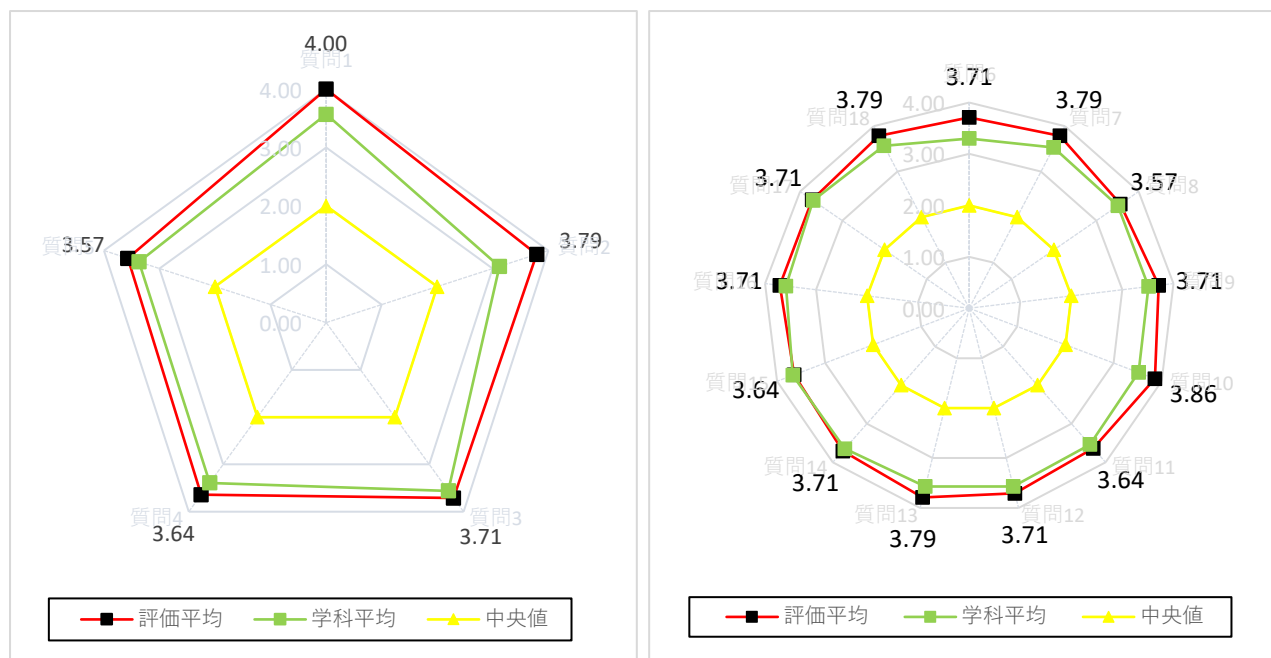
しかしながら、本科目は多くの学生の苦手とする科目であることや、学生によっては理解度に差があると考えられるため、改善の余地はあると思われる。また、授業アンケートへの回答率が低いことから、授業内で回答する時間を設けるなどの工夫が必要と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は座学中心ではあるが、学生の表情や反応について適宜確認する（遠隔時には、反応ボタンを細やかに活用する）など授業スピード等学生の理解度に配慮しつつ、意欲的に参加できる工夫をしていきたい。また、国家試験においても本科目は頻出事項でもあることから、オンライン型システムを活用し繰り返し練習問題に取り組める環境作りなど、より個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		応用栄養学実習	83名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

応用栄養学実習の授業評価においては、授業アンケート回答率が著しく低いため分析するには偏りがあるものの、授業内容に関する項目において学科平均と同じレベルにあったことや、学生からの「充実感を得た」というコメントからも、おおむね良好な内容であったと考えている。

とはいえ、本授業は学生自身が考え、課題を発見し・解決策を見つける展開を重視しているため、学生によっては“正解”というものが無いスタイルが合わず、苦手とする学生もいるものではないかと思われる。学生誰もが楽しく、自主性や知的な問題に取り組む姿勢の向上が達成できるよう、学生個々のレベルに応じた授業取組みのための改善は必要であると考えている。

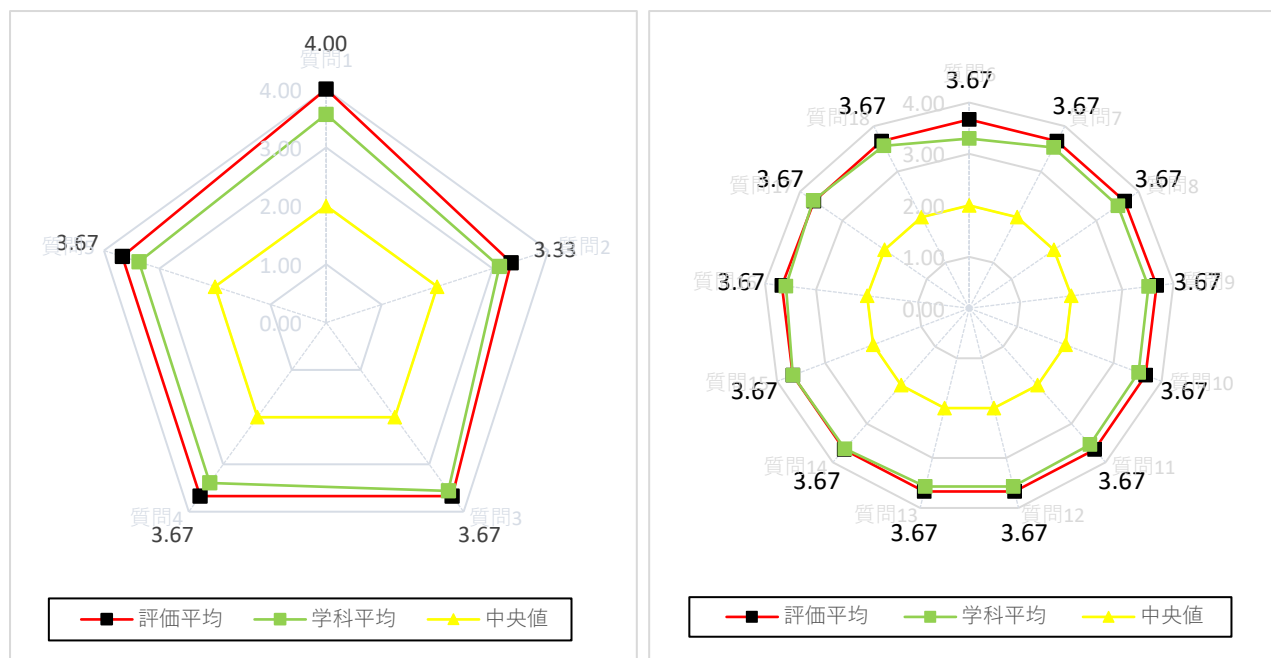
(3) 次年度に向けての取り組み

応用栄養学実習はグループワークを中心とする実習を主とする科目であるので、より意欲的に参加できる授業内容になるよう授業展開を工夫していきたい。また、個々の理解度や反応に配慮したアドバイスを心がけることで、問題解決能力がより高まることを期待したい。

さらには、授業アンケートへの回答率が低いことから、授業内で回答する時間を設けるなどの工夫が必要と考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		栄養総合演習Ⅱ	31名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

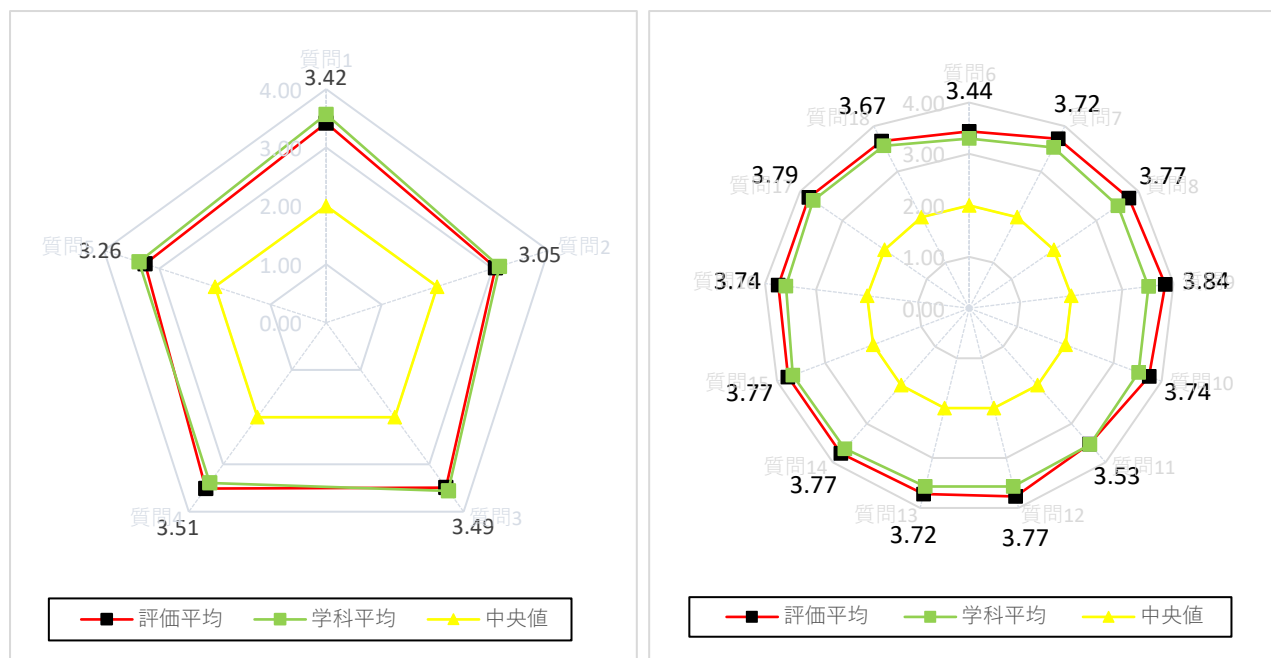
総合演習Ⅱ②の授業評価においては、すべての項目において学科平均と同じレベルにあったことから、おおむね満足できる内容であったと考えている。しかしながら、本授業は学生自身が考え、課題を発見し・解決策を見つける展開を重視しているため、当該スタイルを苦手とする学生もいると考えられる。学生誰もが楽しく、自主性や知的な問題に取り組む姿勢の向上が達成できるよう、学生個々のレベルに応じた授業取組みのための改善は必要であると考えます。

(3) 次年度に向けての取り組み

総合演習Ⅱ②は、アクティブラーニングを主とする授業であるので、より意欲的に取り組める授業内容になるよう授業展開を工夫していきたい。また、個々の理解度や反応に配慮したアドバイスを心がけることで、問題解決能力がより高まることを期待したい。さらには、授業アンケートへの回答率が低いことから、授業内で回答する時間を設けるなどの工夫が必要と考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		化学	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

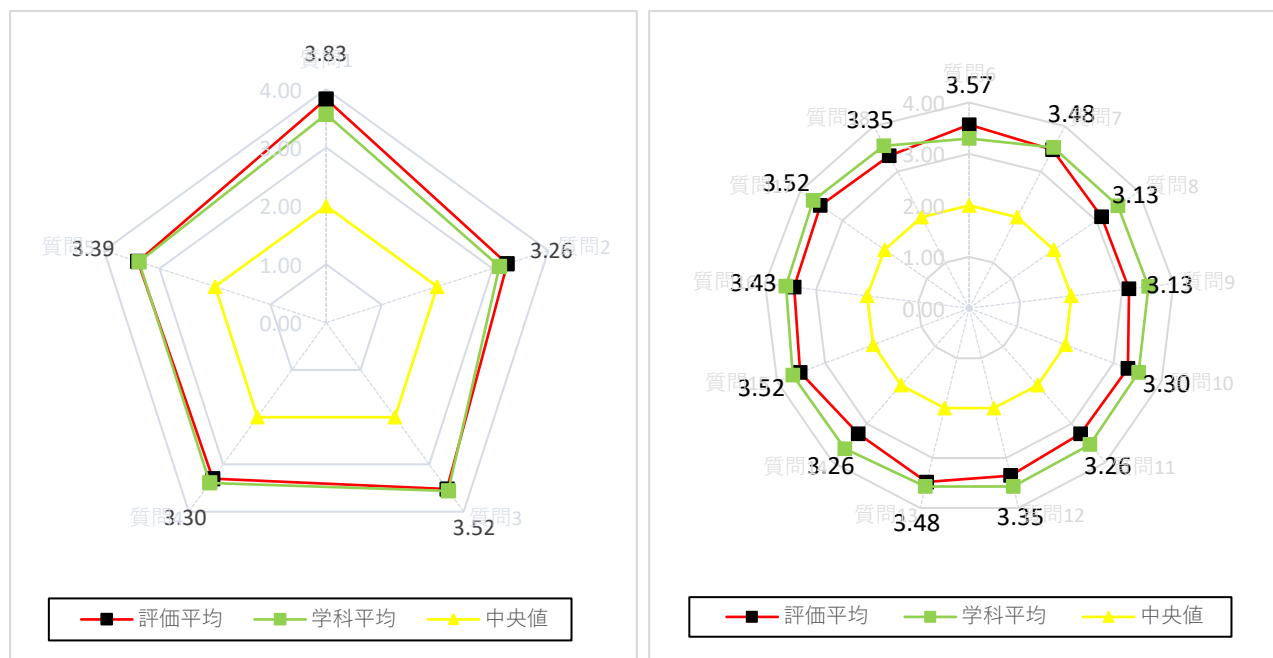
急遽、遠隔授業となって、資料作りが大変であった。
 伝わりにくい内容を、図や動画を用いて分かりやすい説明を心掛けた。
 質問9「授業はわかりやすく工夫されていましたか。」の評価が高く、努力した甲斐があったと嬉しく思った。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も遠隔となったので、昨年度の資料をブラッシュアップして、さらにわかりやすい授業を心掛けたいと思う。
 学生側の顔が見えないのでなかなか双方向授業の感覚がないが、チャットには良く書いてくれたので、様々な機能を利用してなるべく双方向授業となるよう心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		運動指導論	77名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

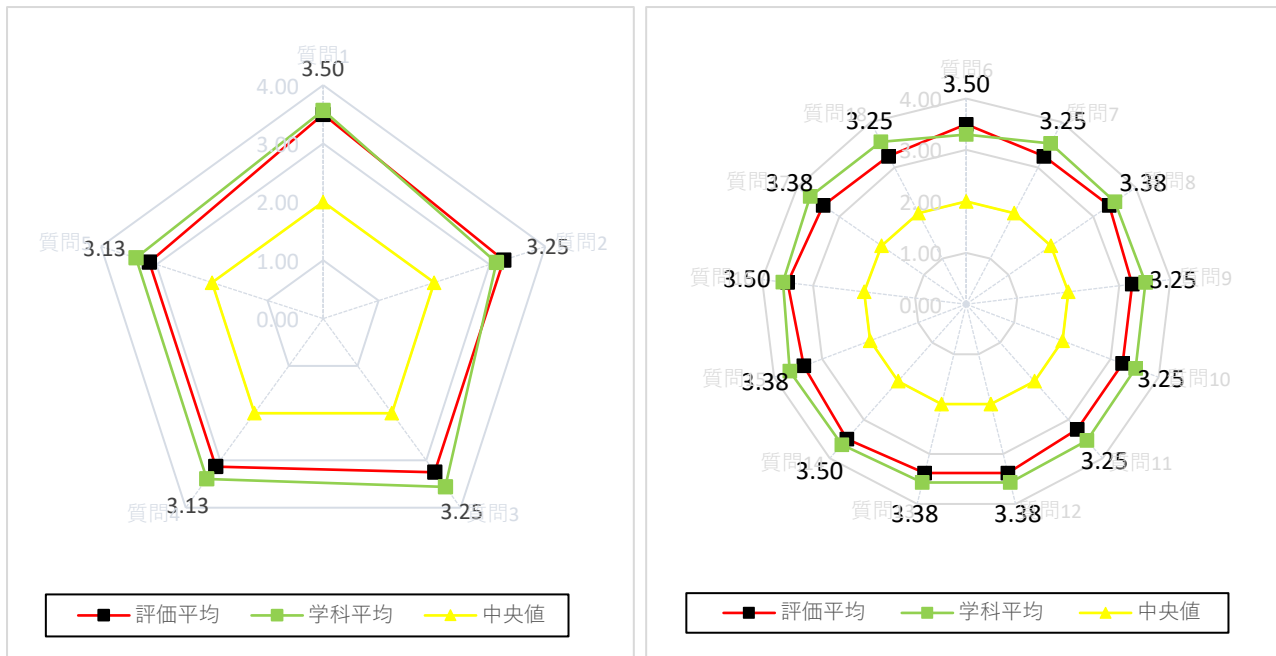
履修者77名のうち回答者が23名の結果（33%）である。まず、学生自身の評価（質問1～5）では、ほぼ3または4の回答で各項目の平均値も3.2以上の評価であった。特に、出席状況では3.83と高く、遠隔授業（一部対面）でありながら良好な状況であった。また、質問6から18までの評価も全ての項目で3以上の結果であった。特に、質問6、質問15、質問17では、4の高い評価の回答が多い項目であったものの、質問8では他の項目より4評価が少ない結果であった。このことは、さらに興味や関心が持てる工夫が求められていることになるので、今後改善努力が必要と考える。総合評価である質問18では、3.35のほぼ良好な結果であったものの、この状況に満足せず、少しでもよい授業になるよう取り組んでいきたいと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回、急な遠隔授業への対応で、少し戸惑った部分もあり、準備が十分にできなかった。今後も遠隔授業を取り入れた授業展開が予想されるため、見やすいスライド等の資料作成に取り組みたい。そして、今回の授業評価を活かせるよう、工夫した授業を今後検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学演習 I	118名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

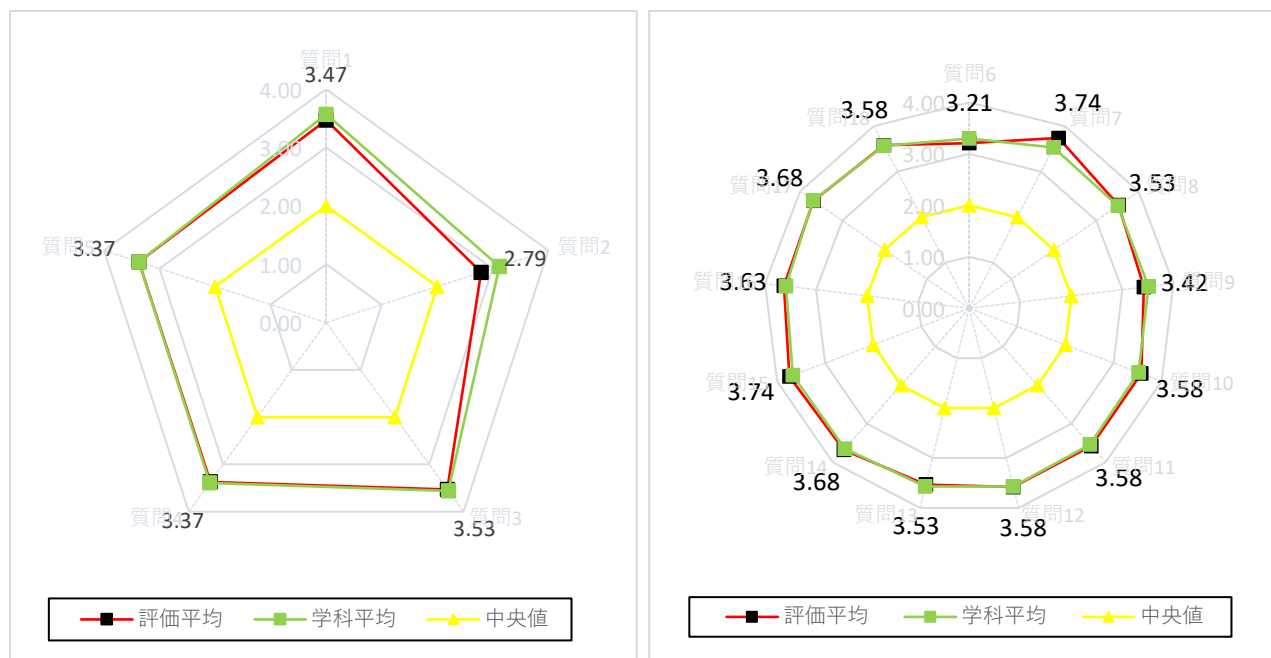
この科目は、栄養士実力認定試験の受験講座の一環として行ったものである。管理栄養士国家試験の入門としての位置付けにもなる。今年度は、コロナの影響で遠隔にて行った。そのせいか、学科平均よりも悪い評価となった。オムニバスの授業だったので、各自の評価はわからないが、教員間の差もあるのかもしれない。課題も毎回あり、試験もシビアに行ったことも厳しい評価につながったとも考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度もおそらく遠隔となるので、昨年度と同様の内容となると思われる。各先生でやり方をブラッシュアップして行ってほしい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学演習Ⅱ	92名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

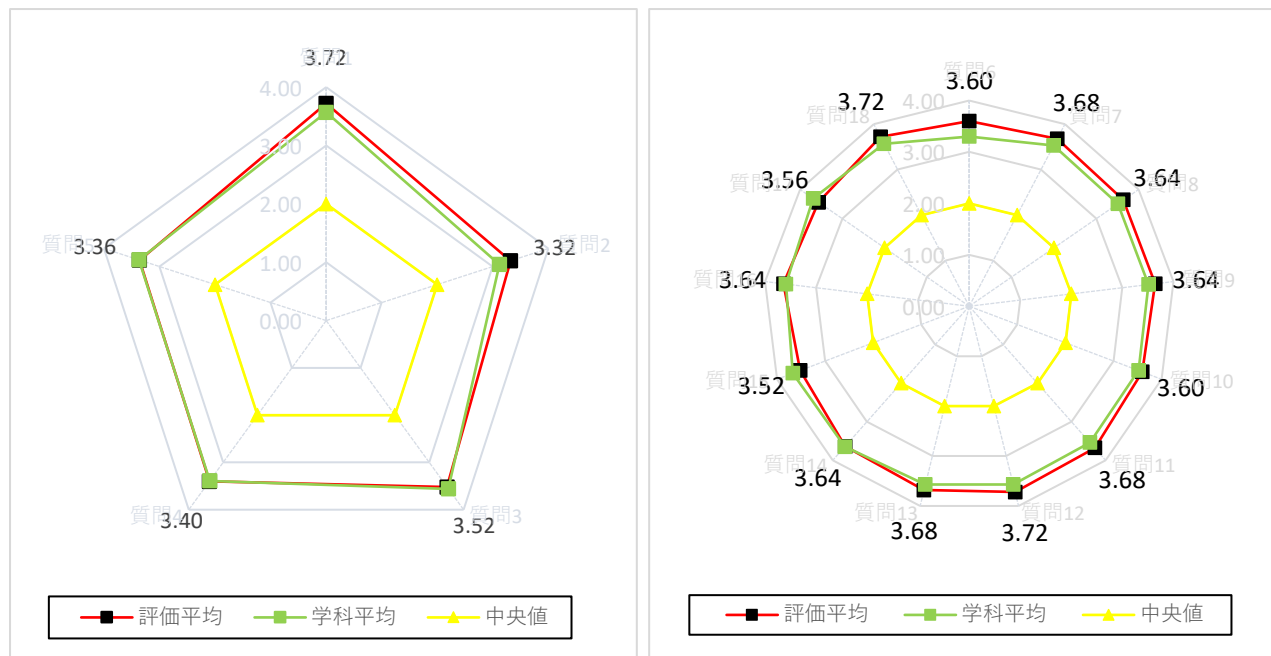
健康栄養学演習Ⅱの授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。遠隔授業を急遽行ったにしては、おおむね満足できる内容であったと考えている。国家試験に関連した内容であり、学生の取り組みも真剣であり、成果は十分に上がっているように感じている。オムニバスの授業であるので、それぞれの教員の授業に対する取り組みは明らかではないが、総合した評価として学生の満足度が高いことから、うまくいっているように考えている

(3) 次年度に向けての取り組み

国家試験に関連した内容であり、学生にとって難解に感じる場所もあると考えられる。この点については、4年時に関連した授業がたくさんあることから、十分に補えると考えられる。また、オムニバスであることから、一人の教員ができる内容が限られているが、この点についても、4年時に関連した授業がたくさんあることから、十分に補えると考えられる。いずれにせよ、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあり、おおむね満足できる内容であったと考えている。今年度も遠隔授業であることから、効果を上げるために改善の余地はあると思われるが、それぞれの教員が各自の専門分野で、毎年工夫を重ねているので、より評価が高まることを期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品機能学	78名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

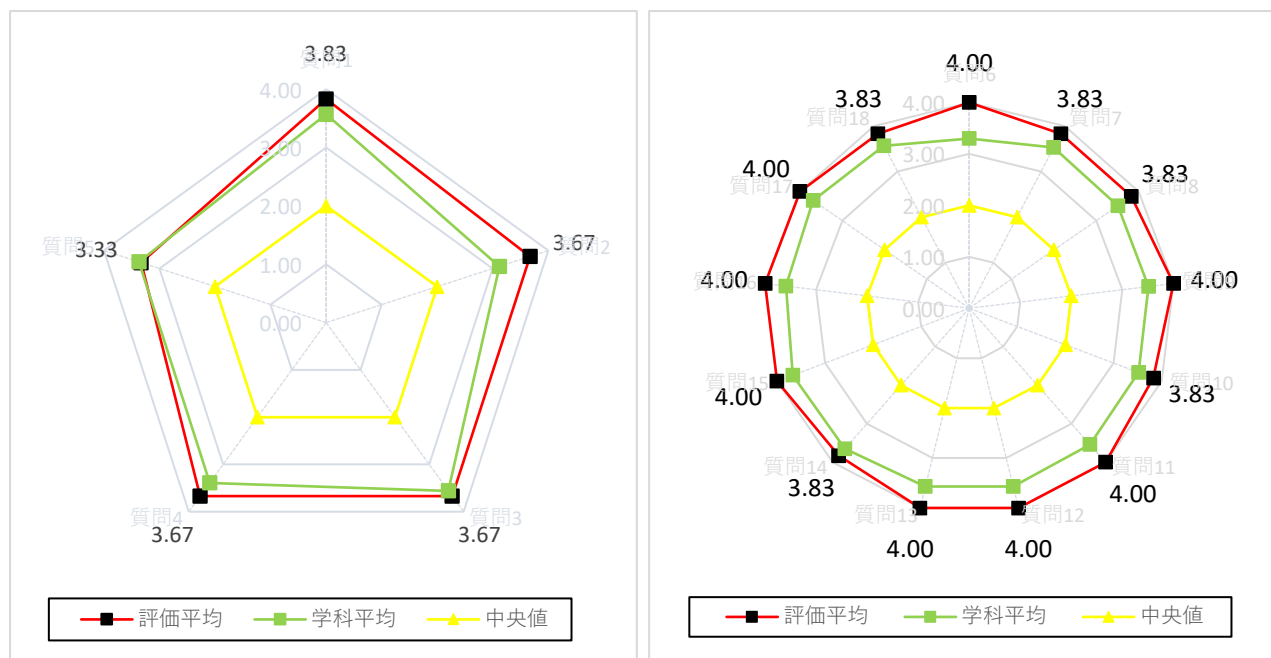
急遽、ハイブリッド型授業となって、資料作りが大変であった。伝わりにくい内容を、図を用いて分かりやすい説明を心掛けたが、ハイブリッド型でとてもやりにくかった。対面できている学生に対して動きながら説明をしたいが、オンラインの学生に聞こえにくくなるので、パソコンの前を離れられないといった感じでどっち付かずの状況であった。どちらかに統一してほしい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は遠隔か対面かどちらかにしてほしい。昨年度の資料をブラッシュアップして、さらにわかりやすい授業を心掛けたいと思う。オンラインの場合は、学生側の顔が見えないのでなかなか双方向授業の感覚がないが、チャットには良く書いてくれたので、様々な機能を利用してなるべく双方向授業となるよう心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ヘルスフード科学	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

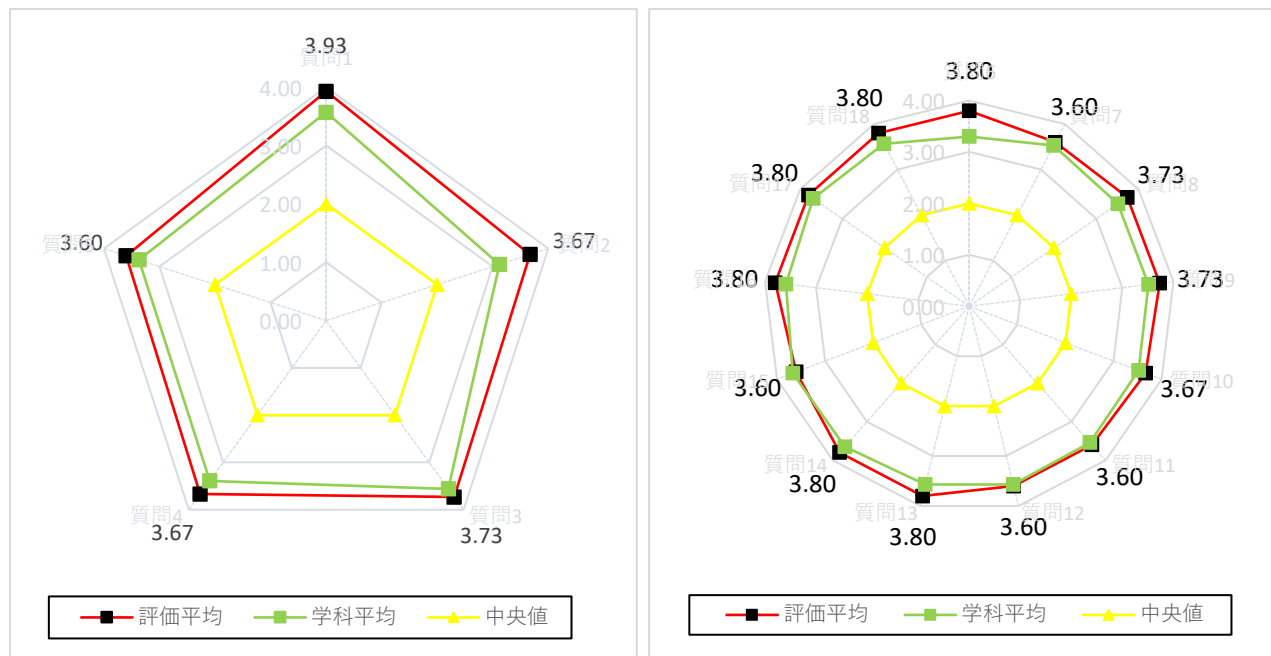
急遽、遠隔授業となって、資料作りが大変であった。
 伝わりにくい内容を、図を用いて分かりやすい説明を心掛けた。
 また、オンライン上で学生同士のディスカッションを行い、発表も行った。
 最初はうまくいか心配であったが、意外とすんなりとうまくいった。
 そのせいか、学生による評価が学科平均よりも高く、おそらく対面の時よりも高い結果となったのではないかとと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も遠隔となったので、昨年度の資料をブラッシュアップして、さらにわかりやすい授業を心掛けたいと思う。
 学生側の顔が見えないのでなかなか双方向授業の感覚がないが、チャットには良く書いてくれたので、様々な機能を利用してなるべく双方向授業となるよう心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		地域の食産業	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

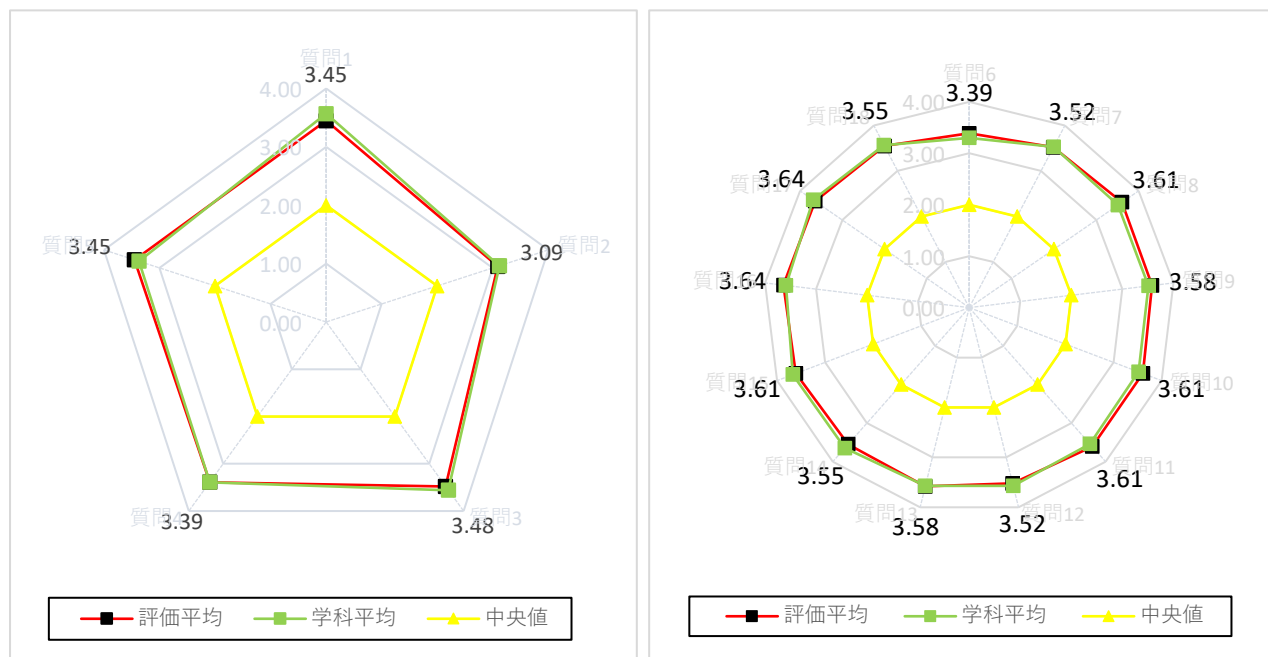
急遽、ハイブリッド型授業となって、とてもやりにくかった。
 ゲストに来ていただいた授業もあったので、ゲストの方が動いてお話しされると、オンラインの学生が聞こえないと言ったり、うまくいときもあった。
 しかし、学生によるディスカッション、発表は、オンライン、対面とミックスしたものとなったが、意外とすんなりとできてよかったと思っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は遠隔か対面かどちらかにして欲しい。
 昨年度の資料をブラッシュアップして、さらにわかりやすい授業を心掛けたいと思う。
 オンラインの場合は、学生側の顔が見えないのでなかなか双方向授業の感覚がないが、チャットには良く書いてくれたので、様々な機能を利用してなるべく双方向授業となるよう心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 看護		教育原論	81名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

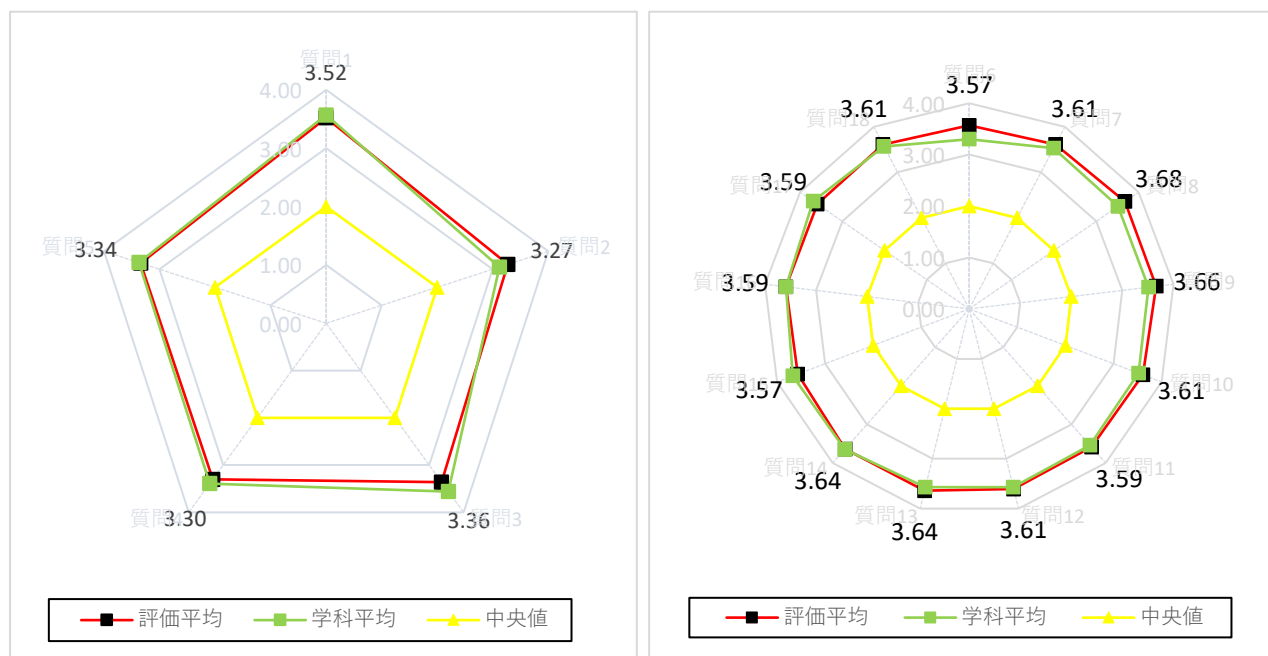
学科平均をやや下回るものの、多くの項目も3.5を超えているので、おおむね評価を得ていると判断している。この授業は遠隔授業で実施したものの、チャットや指名して発言させるなど臨場感あふれる授業運営ができるように工夫した。授業後はネットワーク環境が悪くて授業を視聴できない学生のためにYouTubeに授業動画をあげたり、かなり詳しい配布レジュメを作成し学生たちが復習しやすいようにしたり、工夫を施した。毎回課題を課し、それに対して個別に丁寧なフィードバックを行った。「質問6」のシラバスについての説明は初回授業時に丁寧に説明しているつもりであるし、毎回の授業の冒頭で授業の目的について説明しているのであれば、うまく伝わっていないようであるので、改善の余地がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

オンライン授業では学生たちが集中して取り組むことは難しい。学生たちに参加感を持たせられるような工夫が必要になる。チャットを積極的に使ったり、ブレイクアウトルームを活用したりするなど、学生たちの反応を見ながら模索を続けたい。また、一人ひとりに丁寧な指導が必要になると考えていることから、毎回課題を出して、それに対して丁寧なフィードバックができるように努める。毎回の授業冒頭で本授業の目的について詳しく述べるよう心がける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 スポーツ健康福祉 看護		教職論	58名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

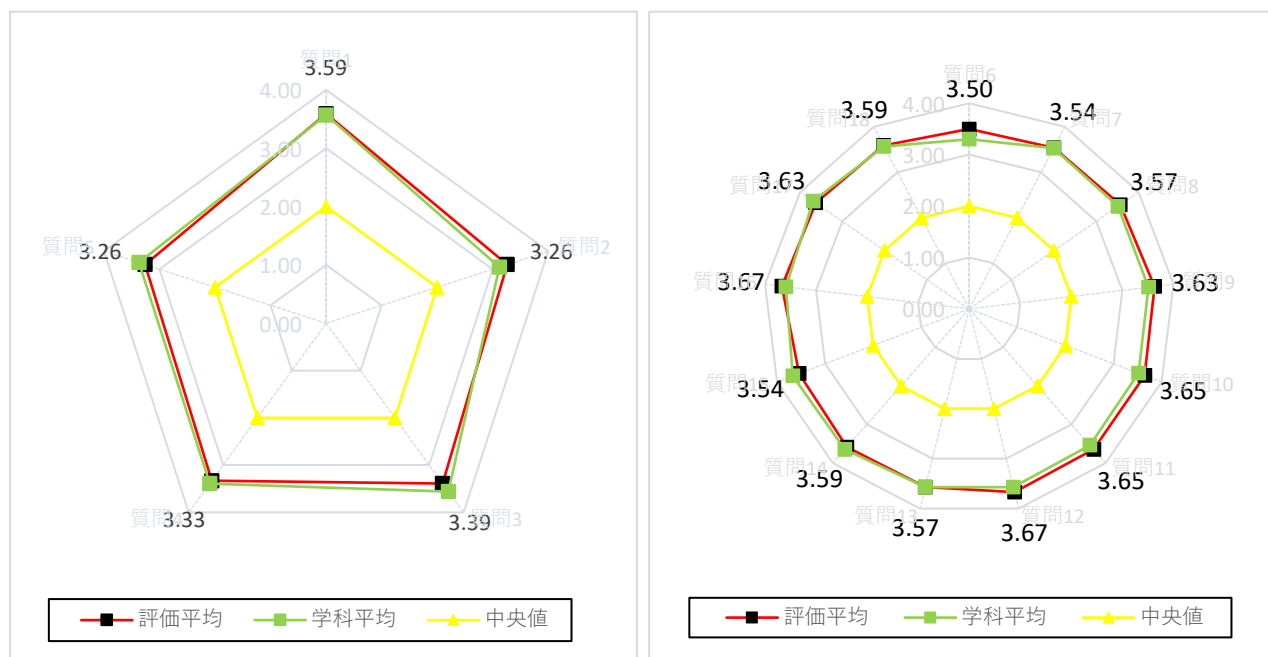
新型コロナウイルスの影響で、急遽遠隔授業が導入された。私は学内ネットワークあり方検討会のメンバーに委嘱されたこともあり、ZOOMを使った授業運営の在り方を積極的に模索した。遠隔授業ではあったものの、チャットや指名して発言させるなど臨場感あふれる授業運営ができるように工夫した。授業後はネットワーク環境が悪くて授業を視聴できない学生のためにYouTubeに授業動画をあげたり、かなり詳しい配布レジュメを作成し学生たちが復習しやすいようにしたり、工夫を施した。毎回課題を課し、それに対して個別に丁寧なフィードバックを行った。その結果、授業評価も昨年度より大幅に改善され、おおむね学生たちが満足できる授業を提供できたと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

オンライン授業では学生たちが集中して取り組むことは難しい。学生たちに参加感を持たせられるような工夫が必要になる。チャットを積極的に使ったり、ブレイクアウトルームを活用したりするなど、学生たちの反応を見ながら模索を続けたい。また、一人ひとりに丁寧な指導が必要になると考えていることから、毎回課題を出して、それに対して丁寧なフィードバックができるように努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 看護		教育制度論	64名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

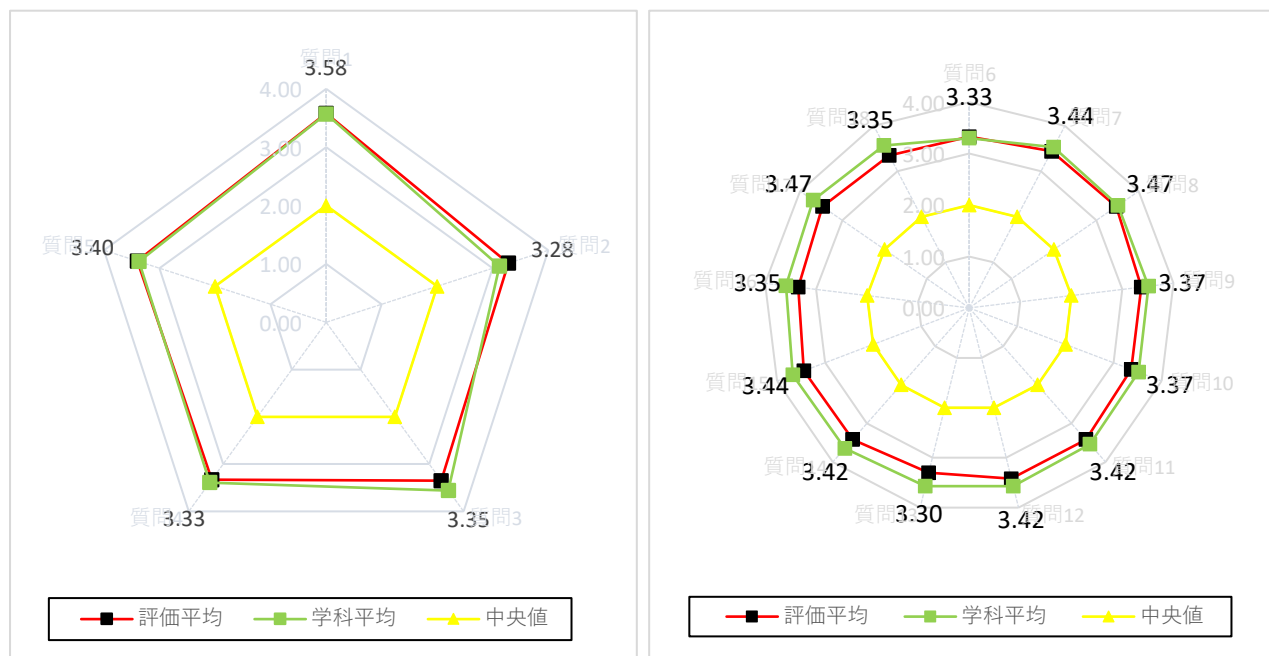
新型コロナウイルスの影響で、急遽遠隔授業が導入された。私は学内ネットワークあり方検討会のメンバーに委嘱されたこともあり、ZOOMを使った授業運営の在り方を積極的に模索した。遠隔授業ではあったものの、チャットや指名して発言させるなど臨場感あふれる授業運営ができるように工夫した。授業後はネットワーク環境が悪くて授業を視聴できない学生のためにYouTubeに授業動画をあげたり、かなり詳しい配布レジュメを作成し学生たちが復習しやすいようにしたり、工夫を施した。毎回課題を課し、それに対して個別に丁寧なフィードバックを行った。その結果、授業評価も昨年度より大幅に改善され、おおむね学生たちが満足できる授業を提供できたと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

オンライン授業では学生たちが集中して取り組むことは難しい。学生たちに参加感を持たせられるような工夫が必要になる。チャットを積極的に使ったり、ブレイクアウトルームを活用したりするなど、学生たちの反応を見ながら模索を続けたい。また、一人ひとりに丁寧な指導が必要になると考えていることから、毎回課題を出して、それに対して丁寧なフィードバックができるように努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 看護		特別の支援を要する児童・生徒の理解	59名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、健康栄養学科、社会福祉学科、スポーツ健康福祉学科、そして看護学科にて教員免許状の取得を希望する教職課程履修希望学生の必修科目であり、教職課程の再課程認定により今年度から開講した科目である。これまで学校現場で特別支援教育に携わっていた実務家教員2人が担当している。

今年度はコロナ禍で、前半の授業はすべてポータルサイト経由の課題提出型の遠隔授業になり、後半は、Zoomを用いた遠隔授業を行った。教員も学生も初めての試みで、試行錯誤しながらの授業であったが、授業に対する学生の評価は概ね良かった。また、学生自身の自己評価も同様であった。

ただ、早い時期にレポート未提出（欠席扱い）が続き、数回連絡メールを送ったものの定期試験受験資格の失墜や提出されたレポートの一部に剽窃行為も見られ、残念であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

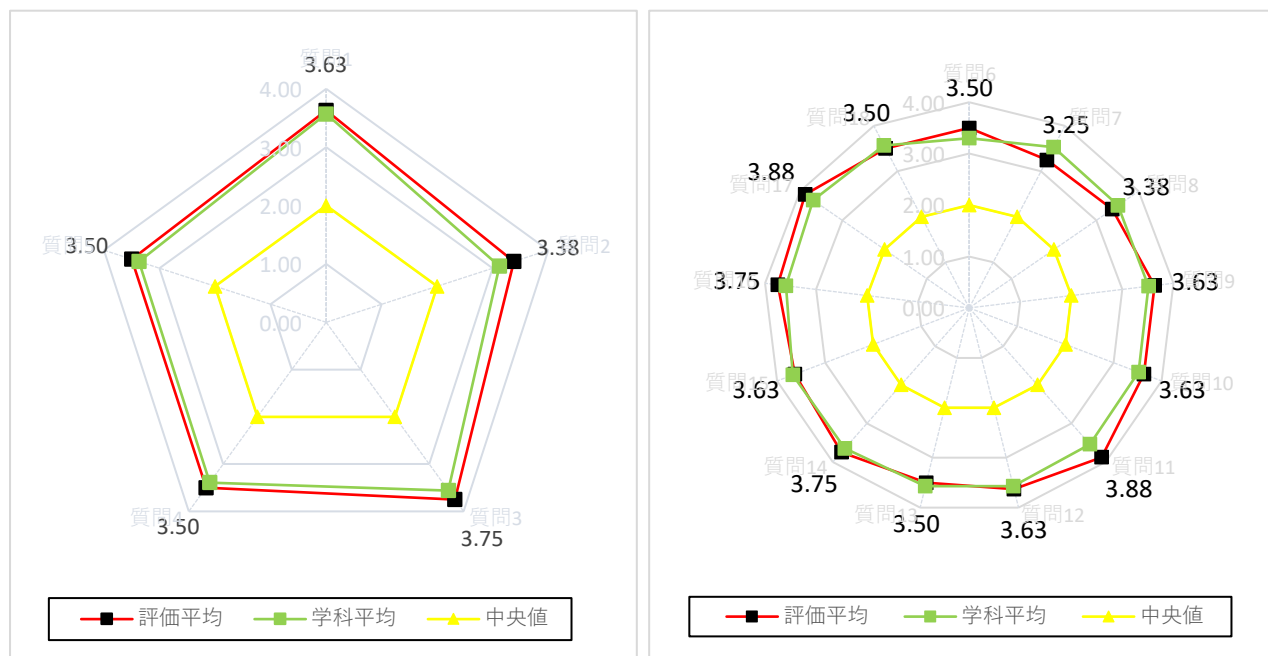
来年度も遠隔授業の場合は、授業後のレポート提出は必須となりそうである。

そこで、授業の最初にシラバスの提示とレポート等提出時の剽窃行為の禁止、定期試験の受験資格等について提示を行い、折に触れて確認を重ねていきたい。

また、引き続き課題や配付資料を工夫しながら、特別支援教育の概要や各学校現場で対応に苦慮している発達障害のある児童生徒への対応、特別支援学級や特別支援学校で教育を受けている児童生徒の理解が進むように授業を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 看護		教育課程論	65名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答者は、健福46人中3人、健栄11人中4人、看護8人中1人、計65人中8人である。全体的に授業態度も熱心で自己評価が高く、授業にも肯定的な評価であった。ZOOMと学修ポートフォリオによるオンライン授業で、授業のやり方として一方的に教え込む授業を避けることは基本的な考えであり、学生に事前学習を課し、その学習成果を元に授業で解説し、学生に返していく反転授業の形にした。また、以前から紙媒体で行ってきた自己評価のシステムを学修ポートフォリオ上で実施した。授業方法や学習観の大きなパラダイム転換を伴うので、オンライン授業という新しい試みの中、学生自身にも当初は戸惑いもあったようだが、授業の進行とともに、この授業のやり方そのものが、カリキュラムと評価の問題を考え、実感する契機となったことは、授業課題の提出等で確認できた。全般に学生は、事前課題をはじめ課題提出をきちんとこなし、授業にも礼儀正しく参加し、よい学習成果を上げることができた。学生の協力を深く感謝する。また、学生からの質問にはすべてメールや授業後のZOOMで対応し、丁寧に説明して理解を得ることができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

上述したように、はじめてのZOOMを使った遠隔授業で、学生からの戸惑いの声も多かったが、授業運営の困難も多かった。走りながら考えるような状況での新しい遠隔授業の取り組みであったが、学生が授業において寄せてくれた声をもとに、様々な観点から、反省点をよく検討し、改善点を明らかにして、今年度の方式を発展的に進めたい。